

門真市子ども・子育て支援に関するニーズ等調査結果の概要

【調査の実施概要】

（１）調査対象

就学前児童の保護者：市内の０～５歳児の保護者から１，５００人

小学生の保護者：市内の小学生児童の保護者から１，５００人

１３歳から１８歳の市民：市内の１３～１８歳の児童から７５０人

ひとり親家庭等：市内のひとり親家庭等から２，２００人

それぞれ、住民基本台帳による無作為抽出

（２）調査方法

郵送配布・郵送とＷＥＢで回収

（３）調査期間

令和６（２０２４）年３月９日（土）～３月２９日（金）

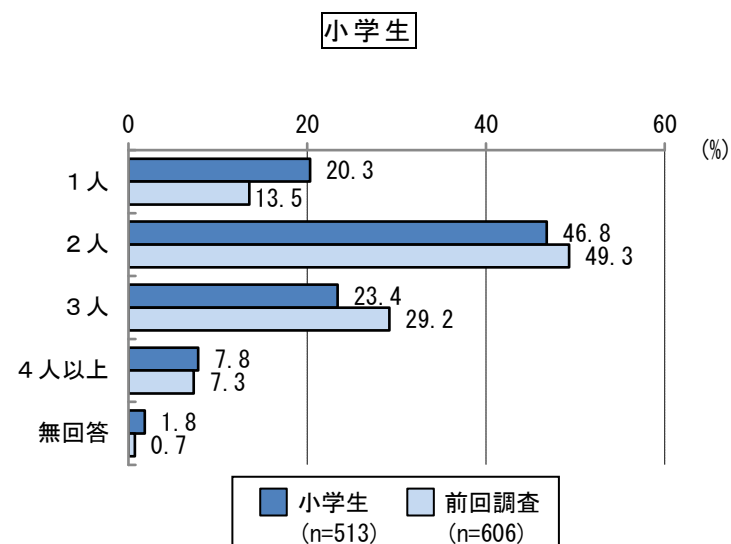
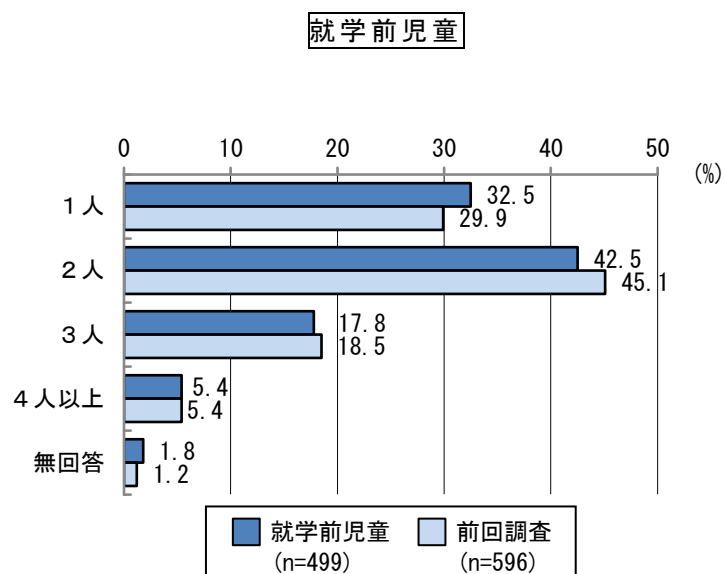
（４）回収結果

	配布数	有効回答数	有効回答率
就学前児童の保護者	1,500 件	499 件	33.3 %
小学生の保護者	1,500 件	513 件	34.2 %
13～18 歳の市民	750 件	183 件	24.4 %
ひとり親家庭等	2,200 件	585 件	26.6 %

【就学前児童保護者調査・小学生児童保護者調査】

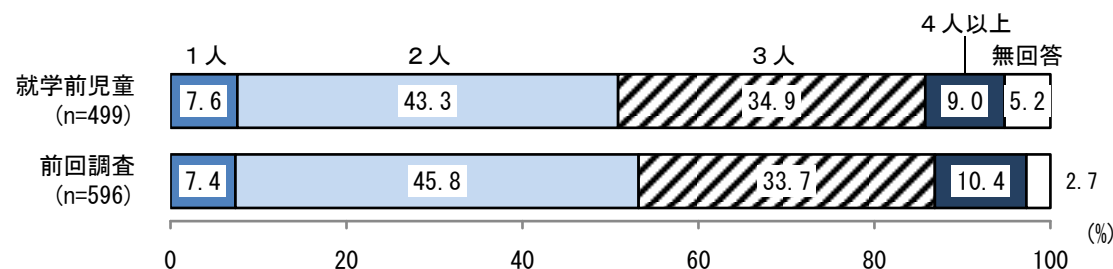
〔1〕 現在の子どもの人数 <小学生では前回との差が大きく、1人が2割、3人が2割弱>

子どもの人数についてたずねたところ、就学前児童では、「2人」が42.5%と最も多く、次いで、「1人」が32.5%、「3人」が17.8%となっています。小学生では、「2人」が46.8%と最も多く、次いで、「3人」が23.4%、「1人」が20.3%となっています。



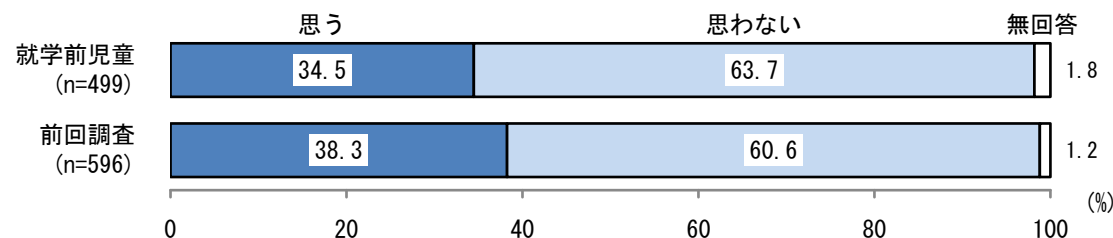
〔２〕理想と思う子どもの人数 <前回同様、２人以上を理想とする割合が高い>

理想と思う子どもの人数についてたずねたところ、「２人」が 43.3%と最も多く、次いで、「３人」が 34.9%、「１人」が 7.6%となっています。



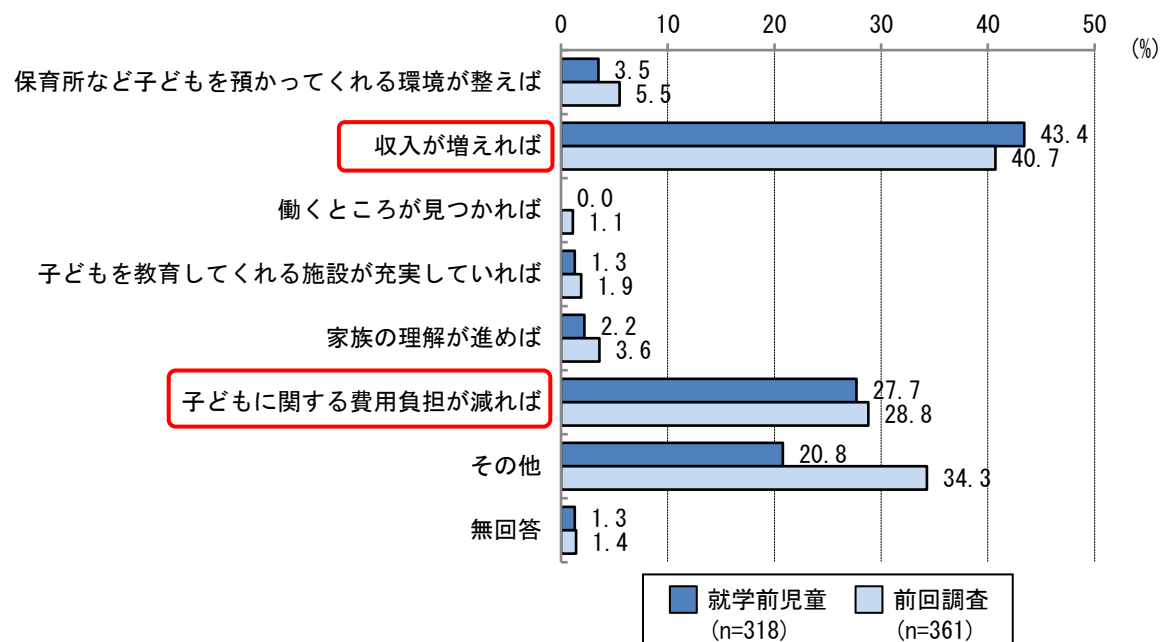
〔３〕もう１人以上の子どもを生み育てたいか <前回に比べて、生み育てたいと思う割合が減少>

もう１人以上の子どもを生み育てたいかについてたずねたところ、「思う」が 34.5%、「思わない」が 63.7%となっています。



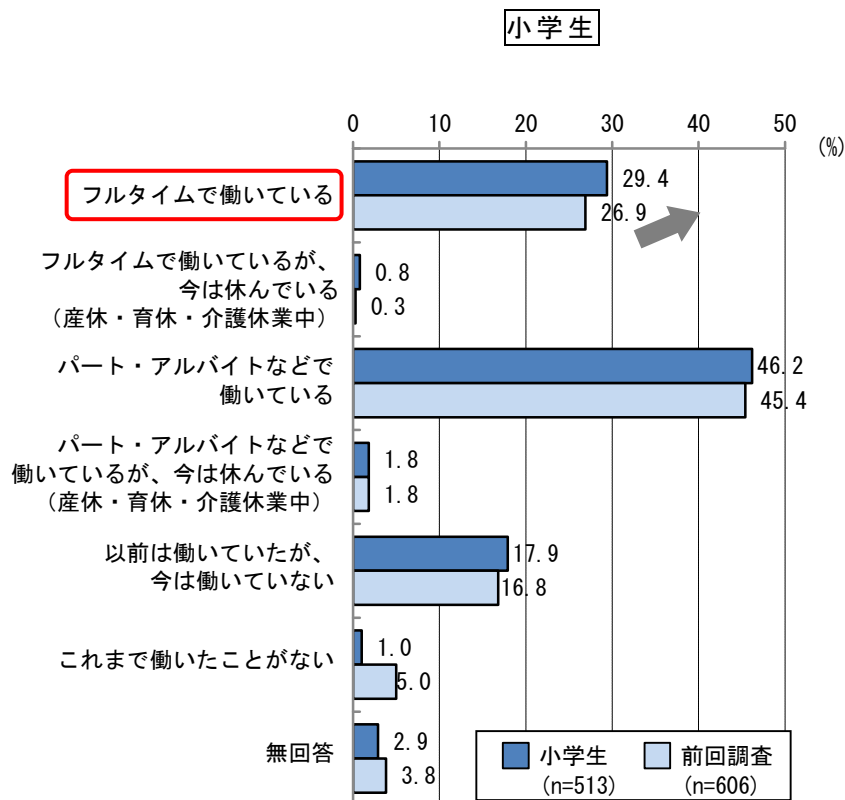
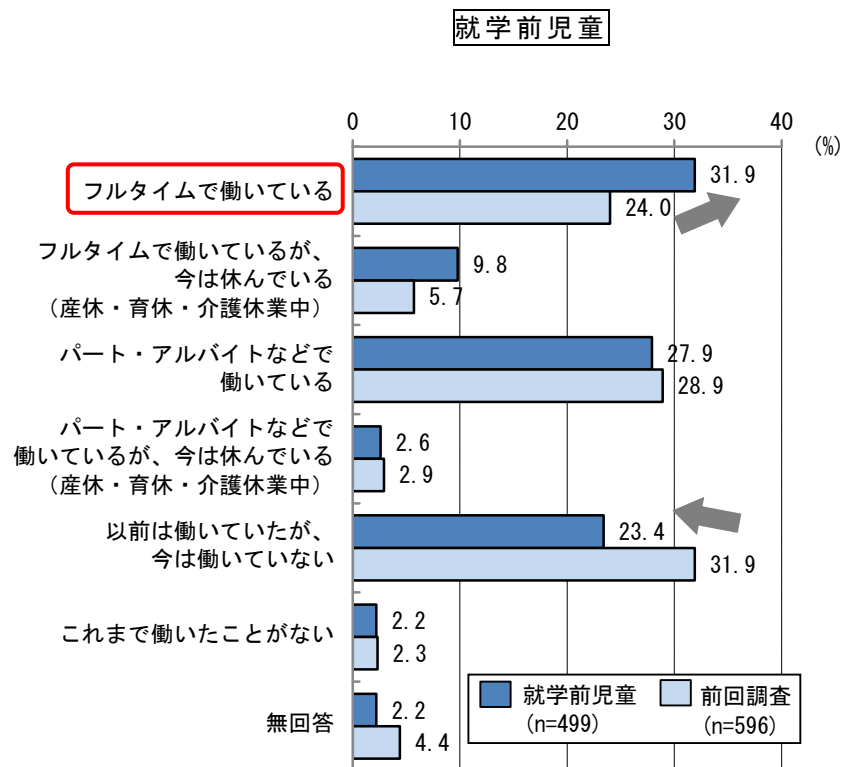
〔４〕どのような環境が揃えばもう１人以上の子どもが生みたいか＜経済的問題が影響している＞

どのような環境が揃えばもう１人以上の子どもを生みたいかたずねたところ、「収入が増えれば」が43.4%と最も多く、次いで、「子どもに関する費用負担が減れば」が27.7%、「保育所など子どもを預かってくれる環境が揃えば」が3.5%となっています。その他の主な意見内容は、「年齢、体力、金銭的に厳しい」、「２人以上子どもがいるため」、「手に負えない、心に余裕がない」となっています。



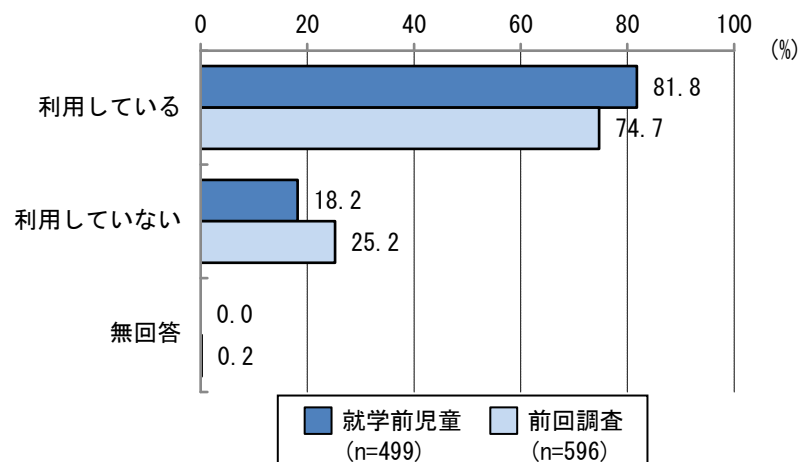
〔 5 〕 母親の就労状況 <母親の就業率は就学前でおよそ7割、小学生でおよそ8割>

母親の就労状況では、『フルタイム』で働いている人が前回調査より増加しており、特に就学前児童の、「フルタイムで働いている」は 7.9 ポイント増加しています。

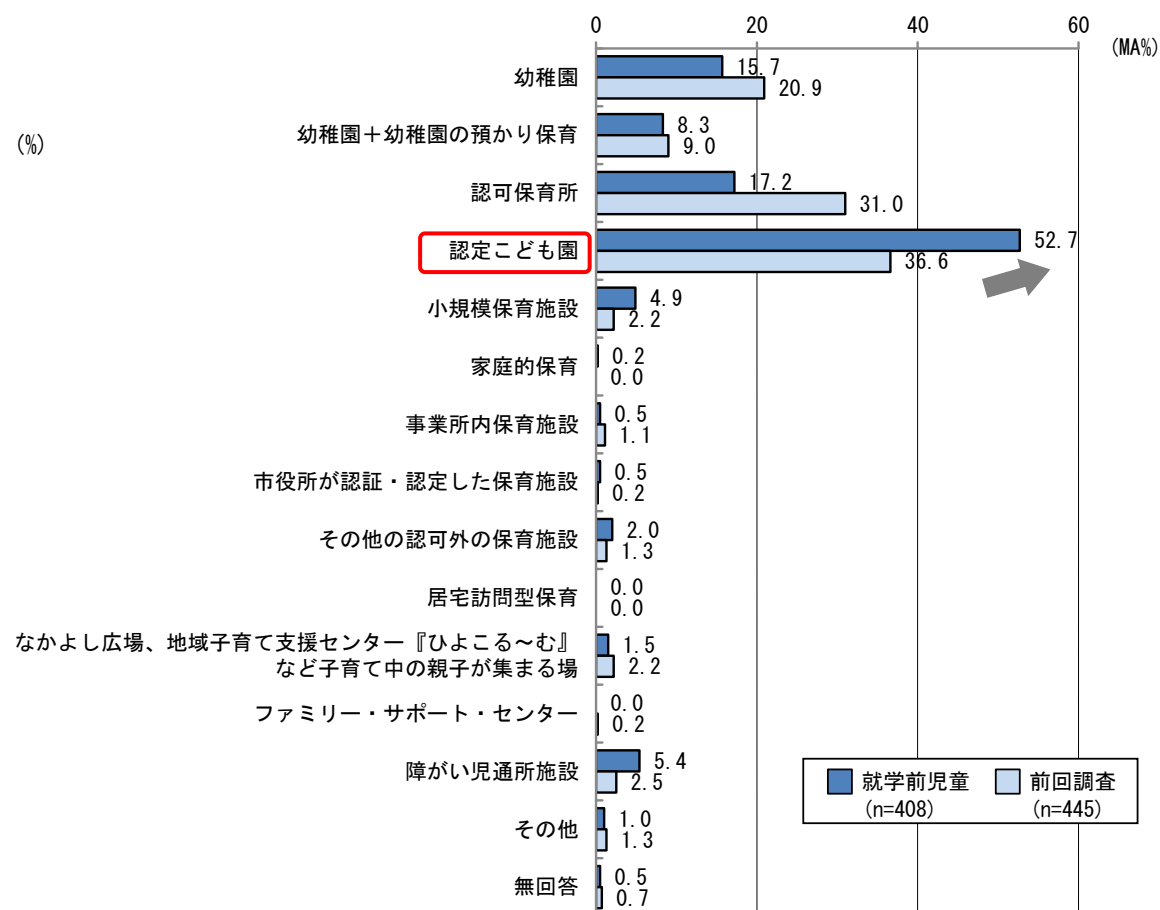


〔 6 〕 平日に定期的に利用している教育・保育事業 **＜認定こども園の利用が5割と前回に比べて大きく増加＞**

平日の教育・保育事業の利用状況についてたずねたところ、「利用している」が81.8%、「利用していない」が18.2%となっています。

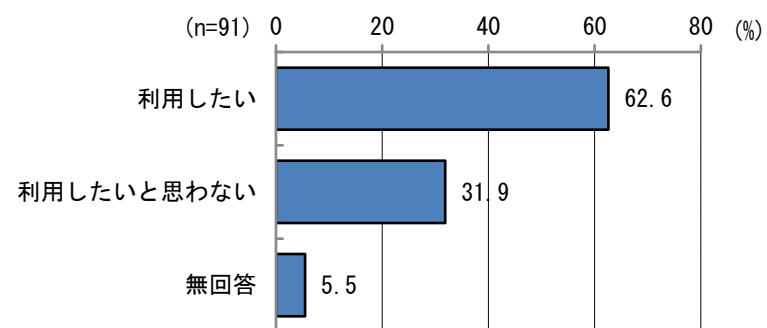


平日に年間を通じて利用している施設についてたずねたところ、「認定こども園」が52.7%と最も多く、次いで、「認可保育所」が17.2%、「幼稚園」が15.7%となっています。



〔 7 〕 時間単位で保育所等を利用する制度について <利用希望が6割>

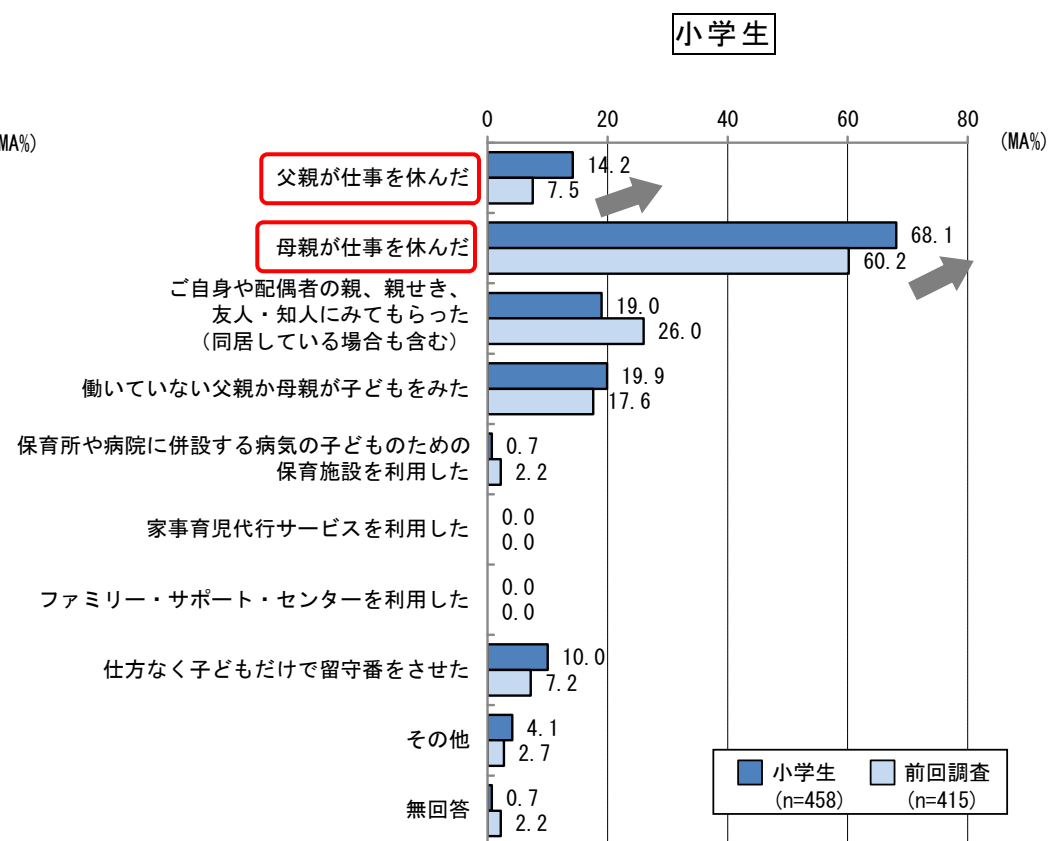
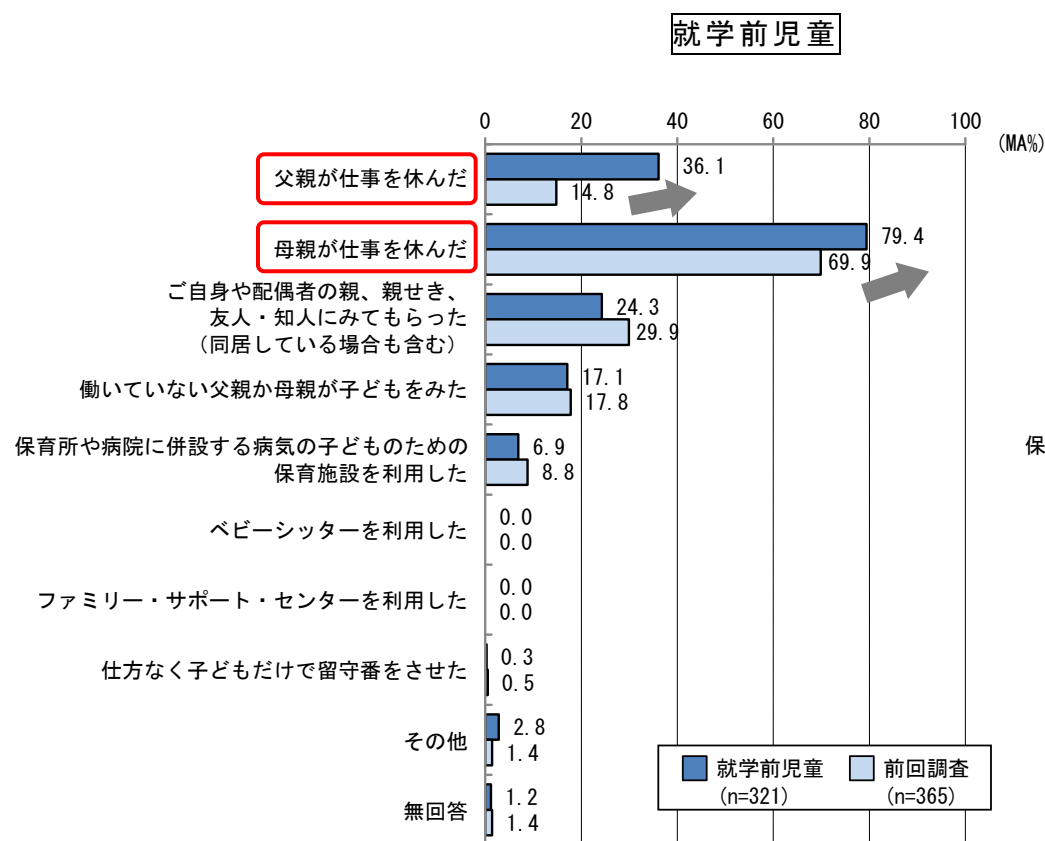
時間単位で保育所等を利用する制度についてたずねたところ、「利用したい」が62.6%、「利用したいと思わない」が31.9%となっています。



〔 8 〕 病気で幼稚園や保育所等を利用できなかったり、小学校を休まなければならなかった場合の対処方法
 く父親、母親ともに仕事を休んだ割合が前回に比べて増加＞

就学前児童では、「母親が仕事を休んだ」が 79.4%と最も多く、次いで、「父親が仕事を休んだ」が 36.1%、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が 24.3%となっています。

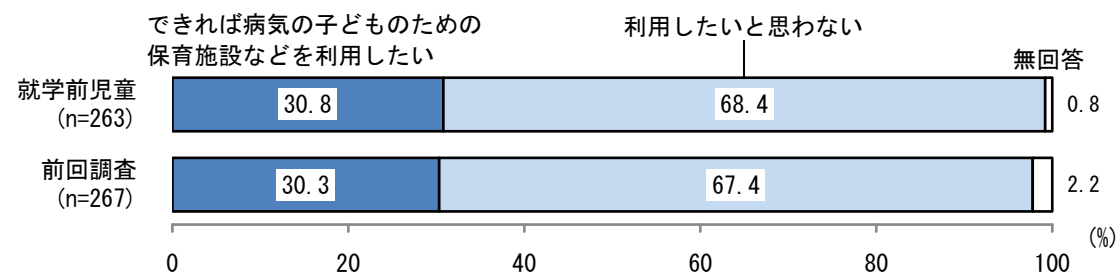
小学生では、「母親が仕事を休んだ」が 68.1%と最も多く、次いで、「働いていない父親か母親が子どもをみた」が 19.9%、「ご自身や配偶者の親、親せき、友人・知人にみてもらった（同居している場合も含む）」が 19.0%となっています。



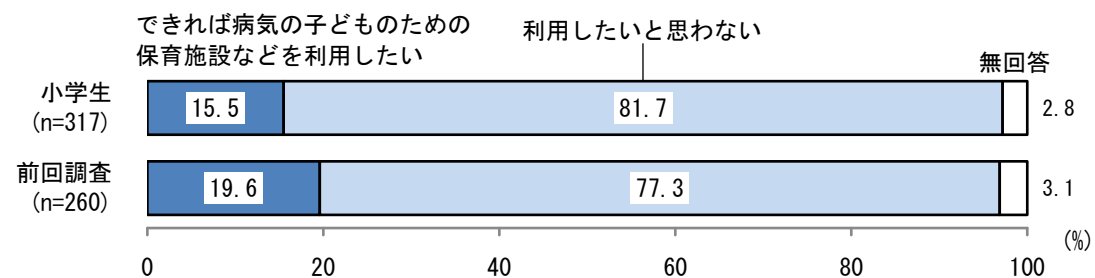
〔 9 〕 病気の子どものための保育施設の利用希望 <前回同様、利用したいと思わない割合が高い>

保育施設の利用意向についてたずねたところ、「利用したいと思わない」が就学前児童では 68.4%、小学生では 81.7%となっています。

就学前児童



小学生



〔10〕 小学校就学後に希望する放課後の過ごし方について

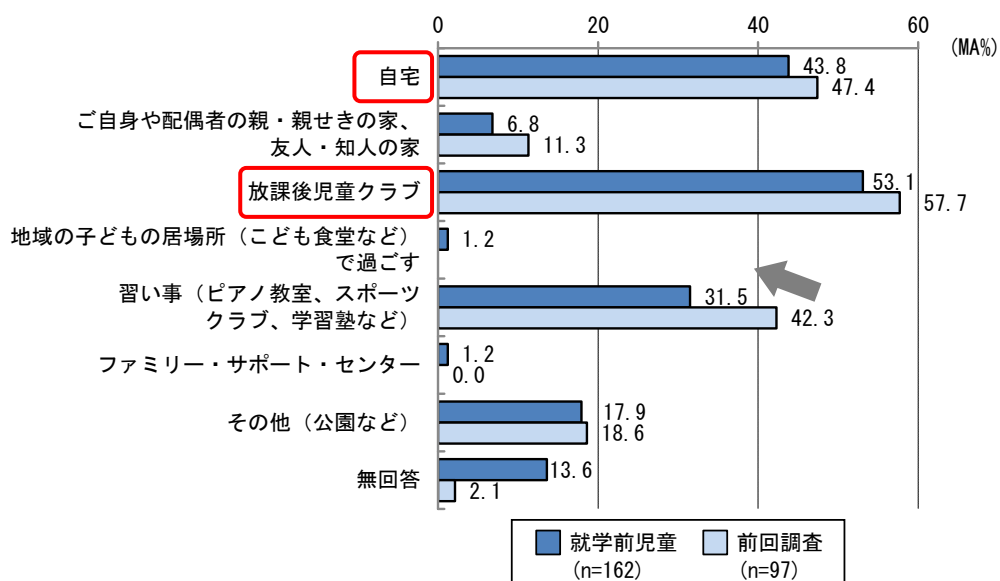
※ 5 歳児保護者のみ回答

＜低学年時は放課後児童クラブが5割、高学年時は自宅が6割＞

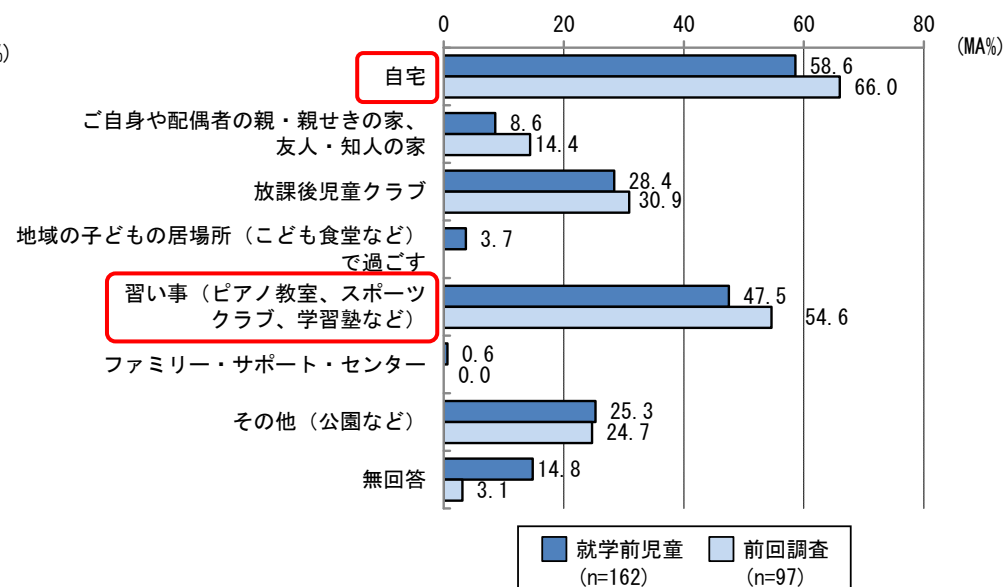
小学校低学年時（1～3年生）では「放課後児童クラブ」が53.1%と最も多く、次いで、「自宅」が43.8%、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が31.5%となっています。

小学校高学年時（4～6年生）では「自宅」が58.6%と最も多く、次いで、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が47.5%、「放課後児童クラブ」が28.4%となっています。

小学校低学年時（1～3年生）



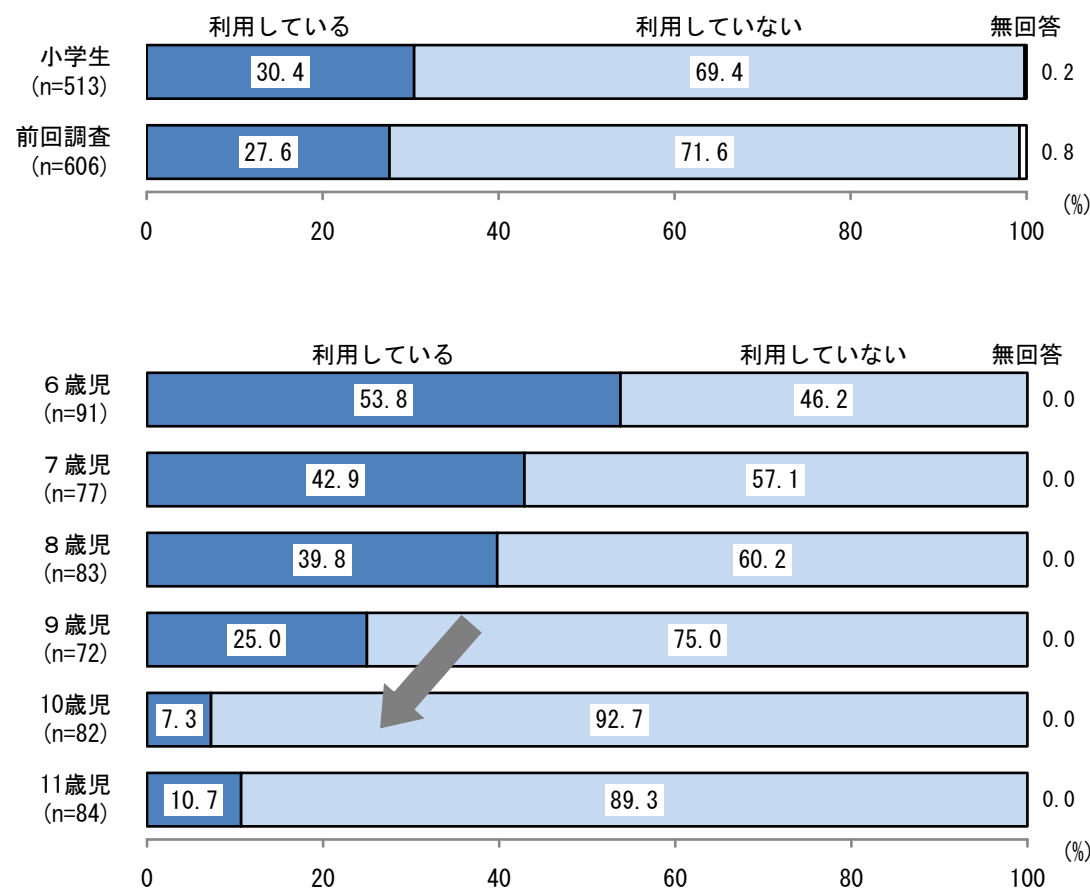
小学校高学年時（4～6年生）



〔11〕 放課後児童クラブの利用状況 <年齢が上がるにつれ利用している割合が減少>

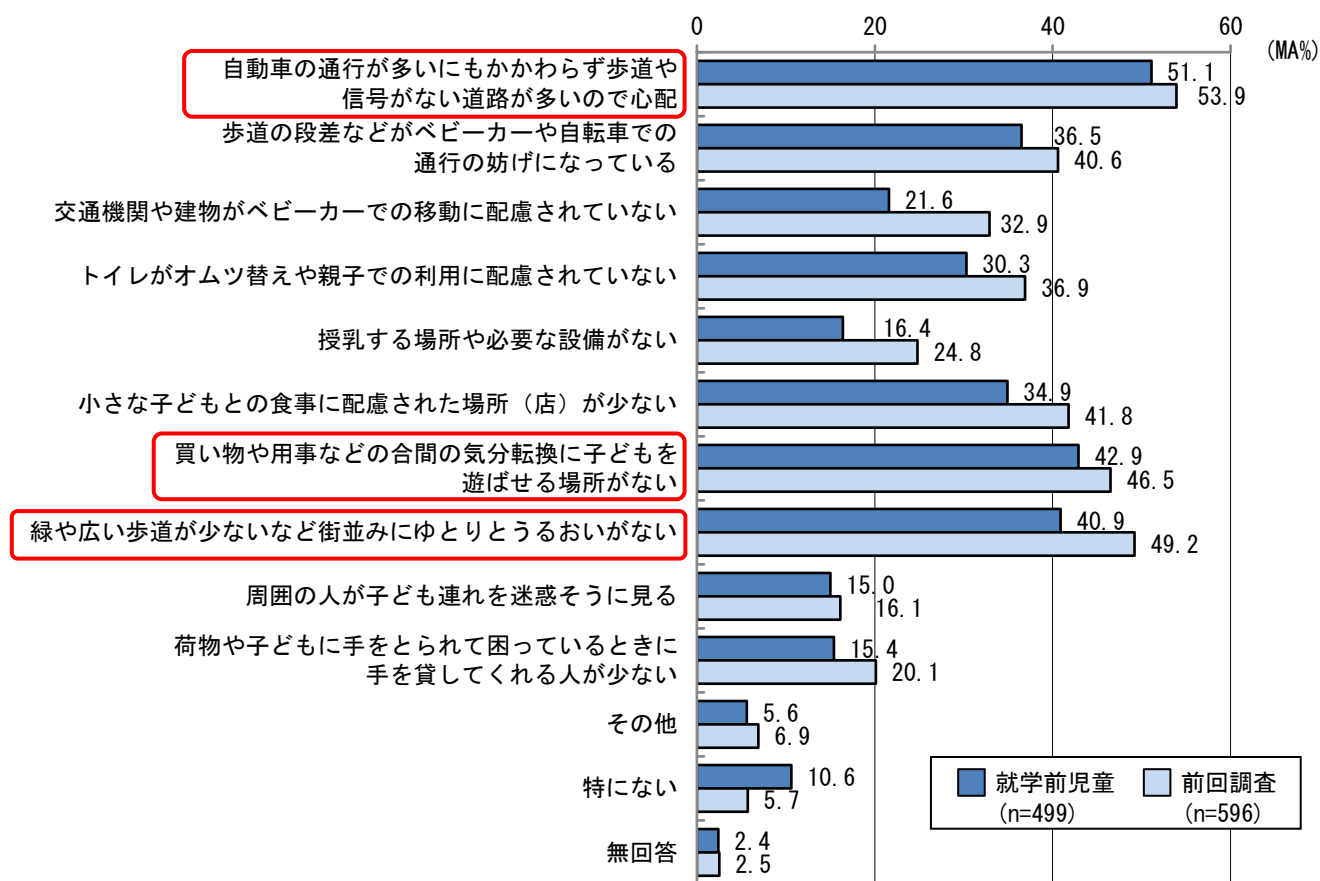
小学生の放課後児童クラブの利用状況についてたずねたところ、「利用している」が 30.4%、「利用していない」が 69.4%となっています。

子どもの年齢別にみると、「10 歳児」で、「利用している」が大きく減少しています。



〔12〕子どもとの外出時に困ること<前回同様、割合が最も多いことから道路整備の面で改善がみられない>

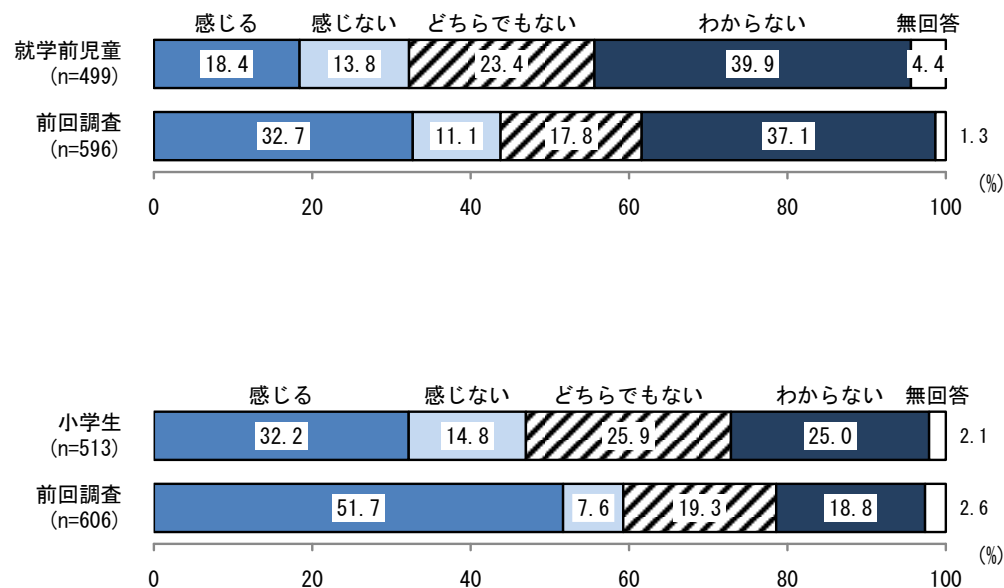
子どもとの外出で困ること、困ったことをたずねたところ、「自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がない道路が多いので心配」が51.1%と最も多く、次いで、「買い物や用事などの合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」が42.9%、「緑や広い歩道が少ないなど街並みにゆとりとuringおいがない」が40.9%となっています。



〔13〕子どもが巻き込まれる事故や犯罪について

＜感じる」と答えた割合が大幅に減少＞

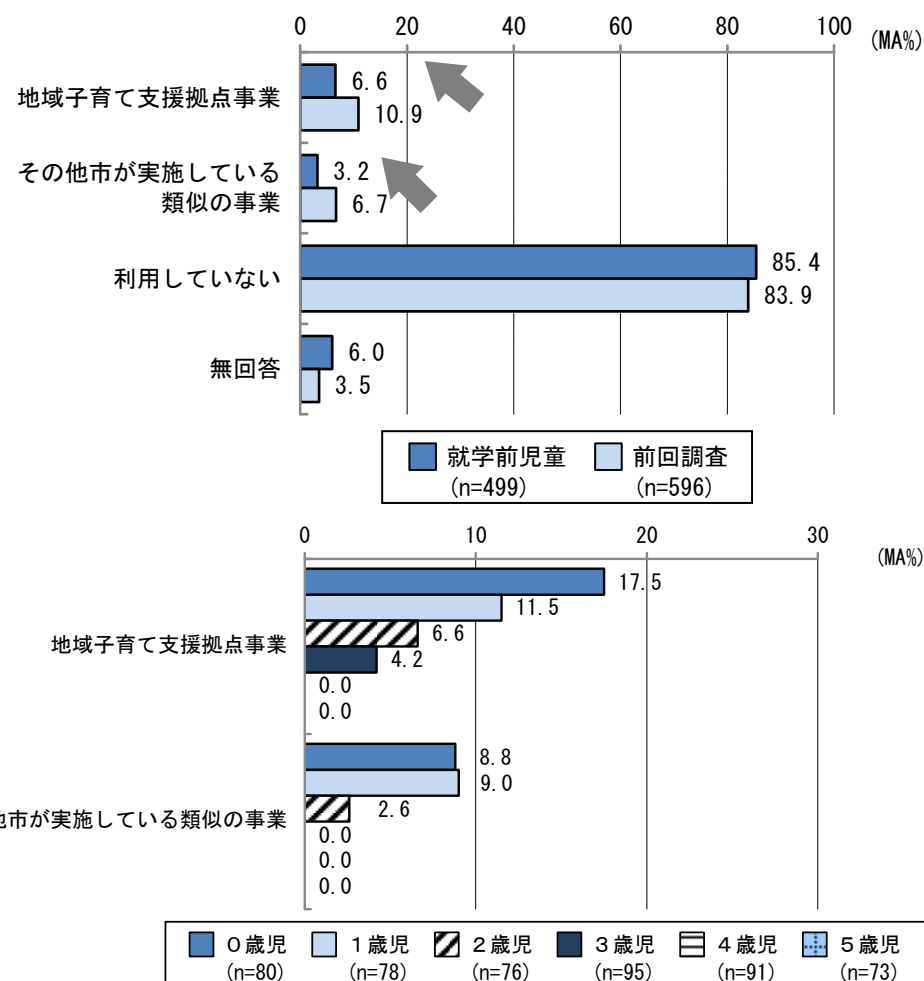
子どもが巻き込まれる事故や犯罪の増加についてたずねたところ、「感じる」が就学前児童では 18.4%、小学生では、32.2%となっています。



〔14〕地域子育て支援拠点事業の利用状況

＜前回に比べて利用している割合が減少＞

地域子育て支援拠点事業は、「利用していない」が 85.4%となっています。利用している割合は、年齢が上がるにつれて減少しています。



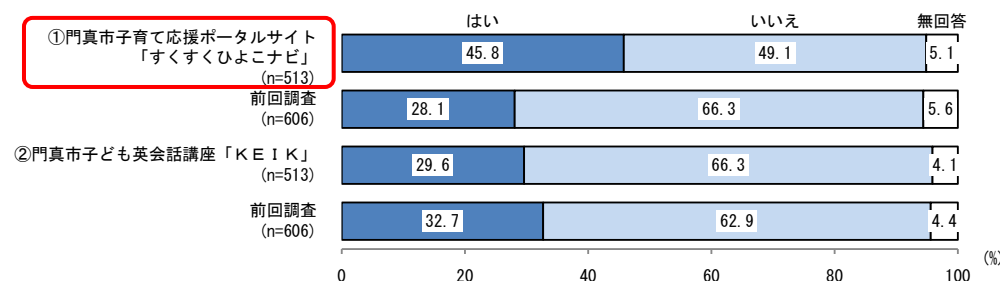
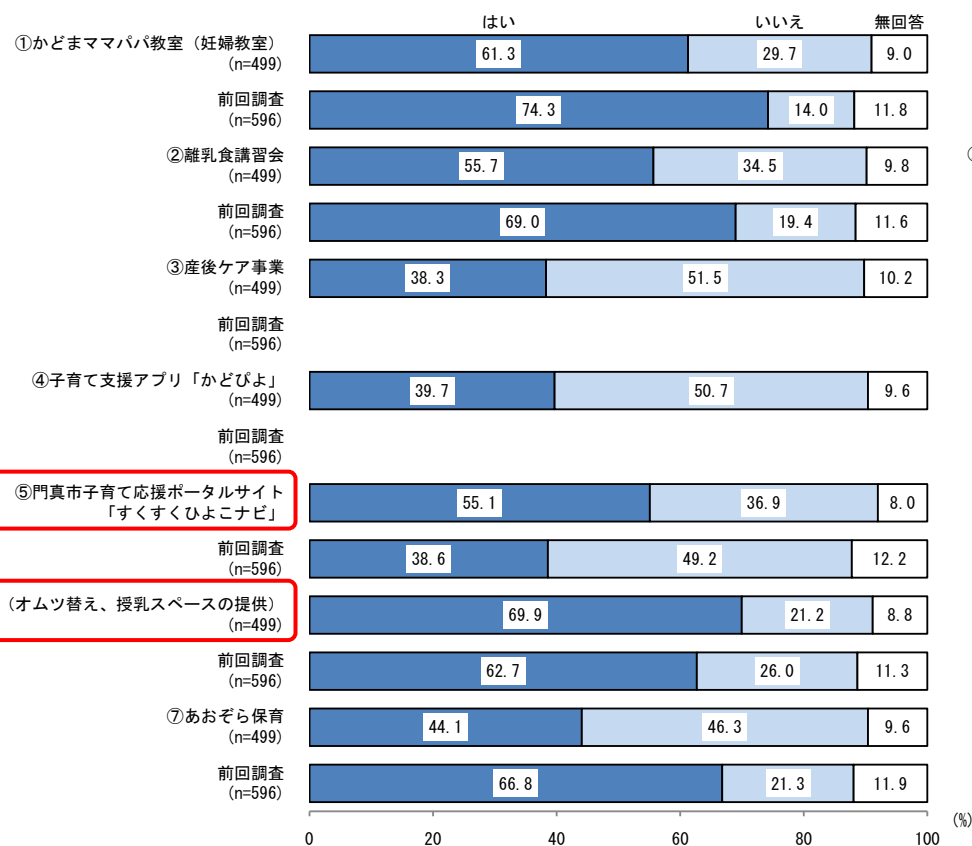
〔15〕子育て支援に関する事業の認知度 <小学生では、前回よりも認知度が全体的に減少>

子育て支援サービスの認知度は、就学前児童では、「⑥赤ちゃんの駅（オムツ替え、授乳スペースの提供）」が 69.9%と認知度が最も多くなっています。

小学生では、「①門真市子育て応援ポータルサイト「すくすくひよこナビ」」が 45.8%と認知度が最も多くなっています。

就学前児童

小学生

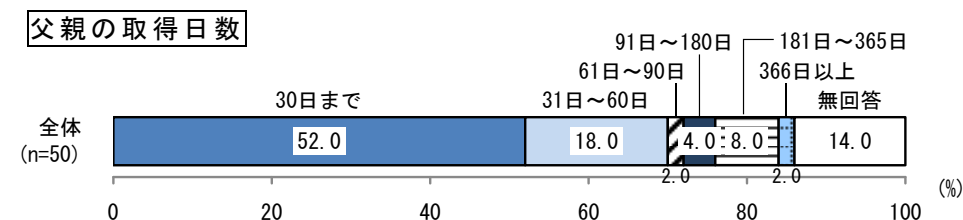
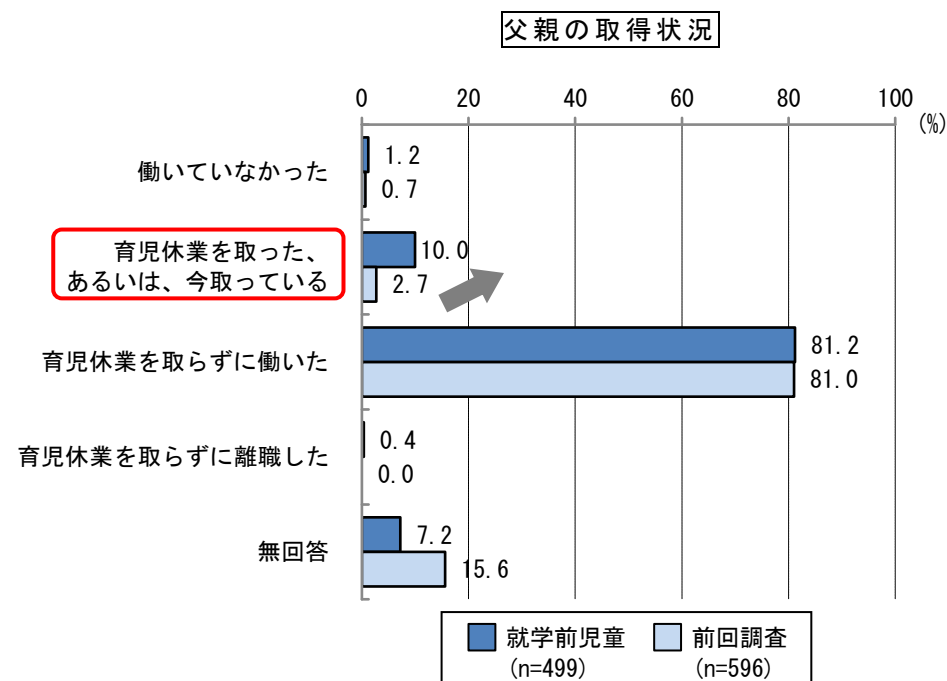
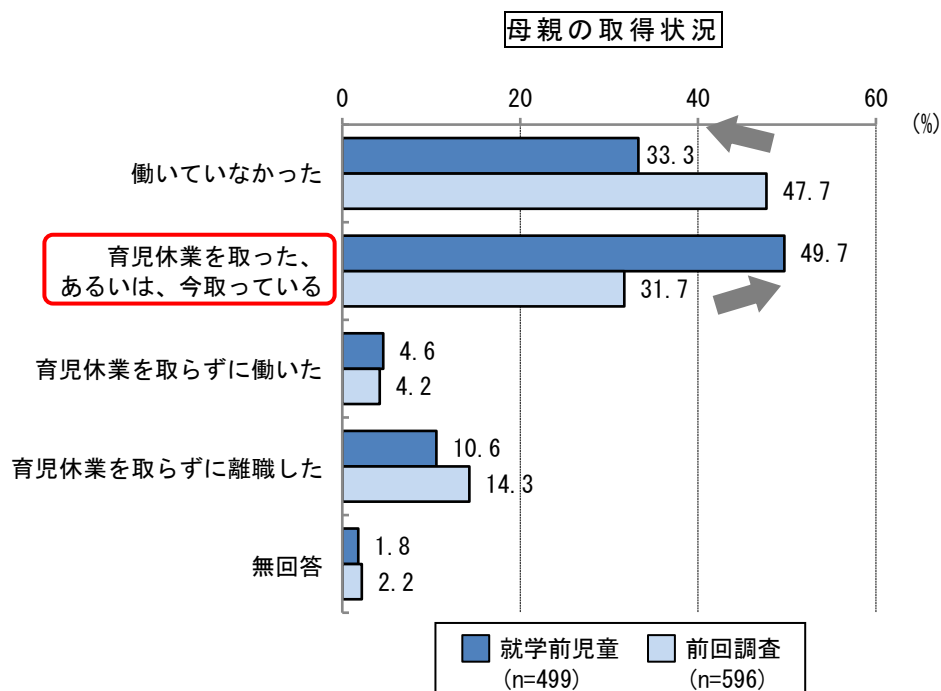


※産後ケア事業と、子育て支援アプリ「かどびよ」は前回調査では項目なし

〔16〕 育児休業の取得状況 <父親、母親ともに育児休業を取った、あるいは、今取っている割合が増加>

母親では、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が 49.7%と最も多く、前回調査と比べると、18.0 ポイント増加しています。

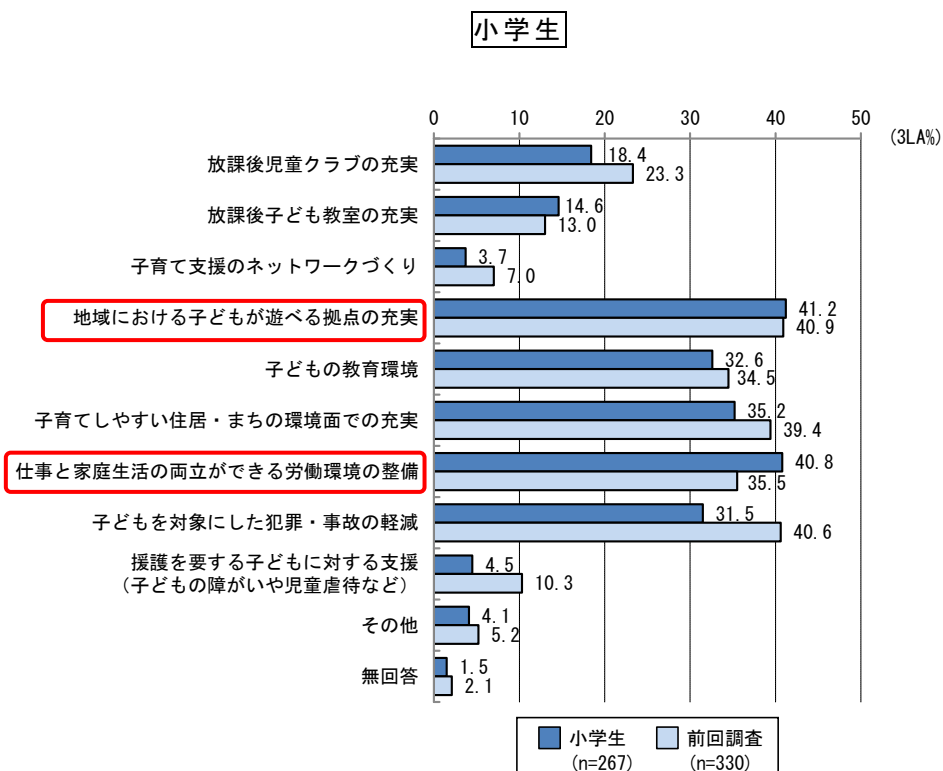
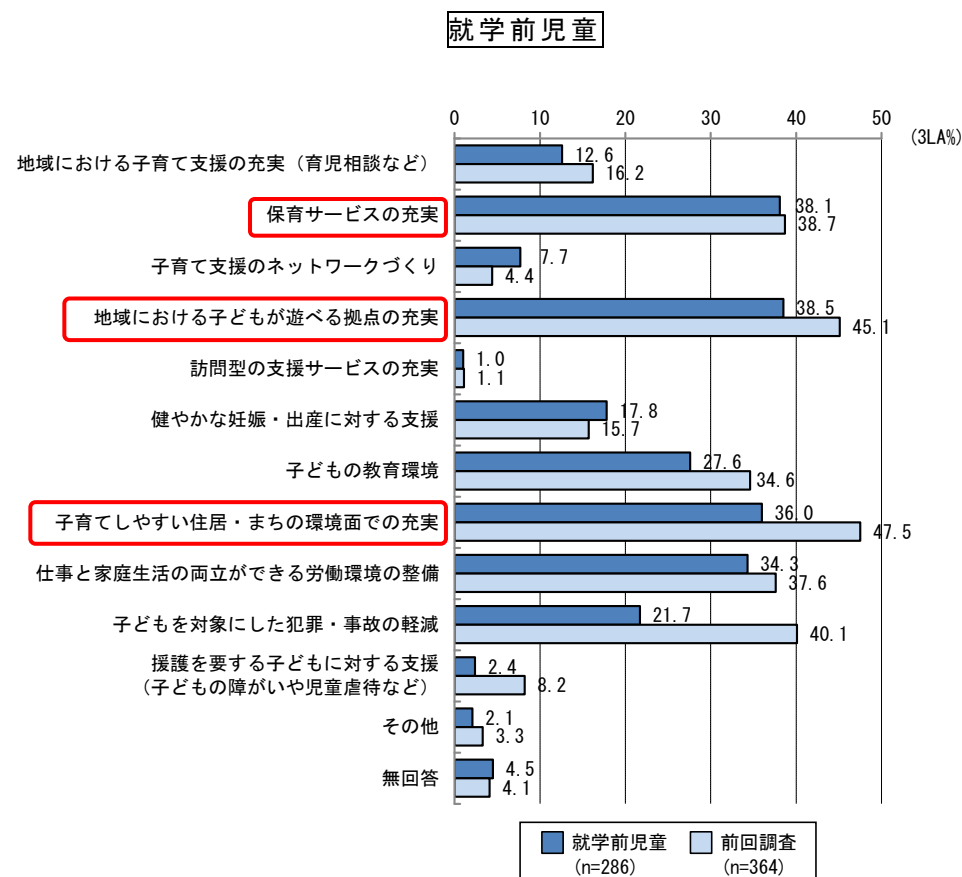
父親では、「育児休業を取った、あるいは、今取っている」が 10.0%となっており、前回調査と比べると、7.3 ポイント増加しています。また、父親で1か月以上の育児休業を取得している人は合計 34.0%みられます。



〔17〕 有効と感じる支援・対策＜就学前児童、小学生ともに地域における子どもが遊べる拠点の充実の割合が高い＞

子育てをする中で有効と感じる支援・対策についてたずねたところ、就学前児童では、「地域における子どもが遊べる拠点の充実」が38.5%と最も多く、次いで、「保育サービスの充実」が38.1%となっています。

小学生では、「地域における子どもが遊べる拠点の充実」が41.2%と最も多く、次いで、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が40.8%となっています。

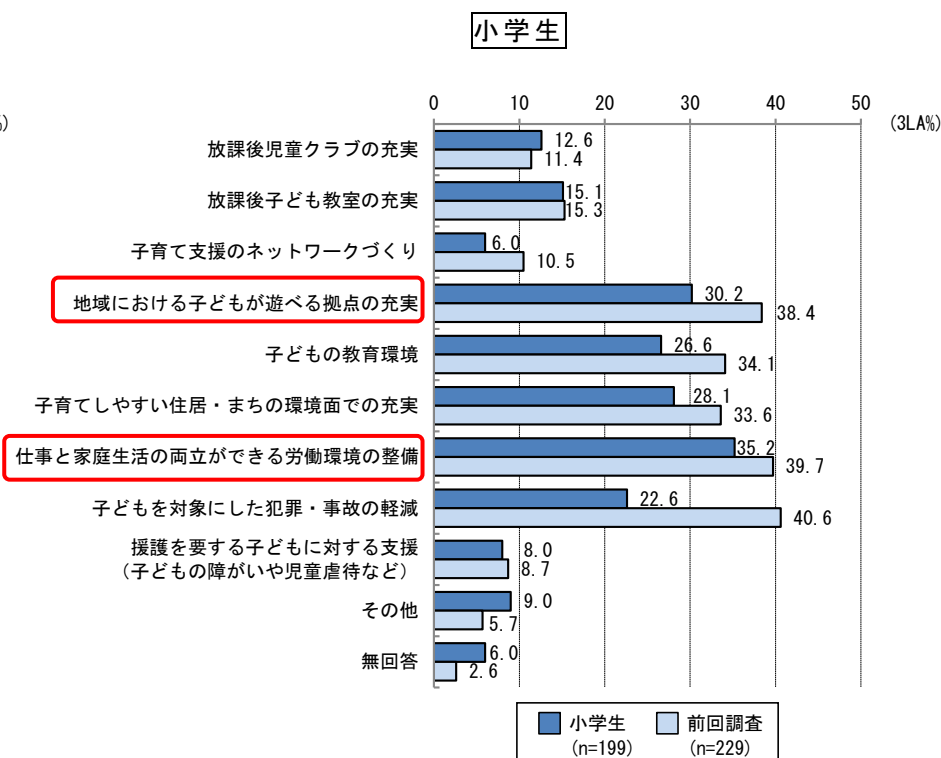
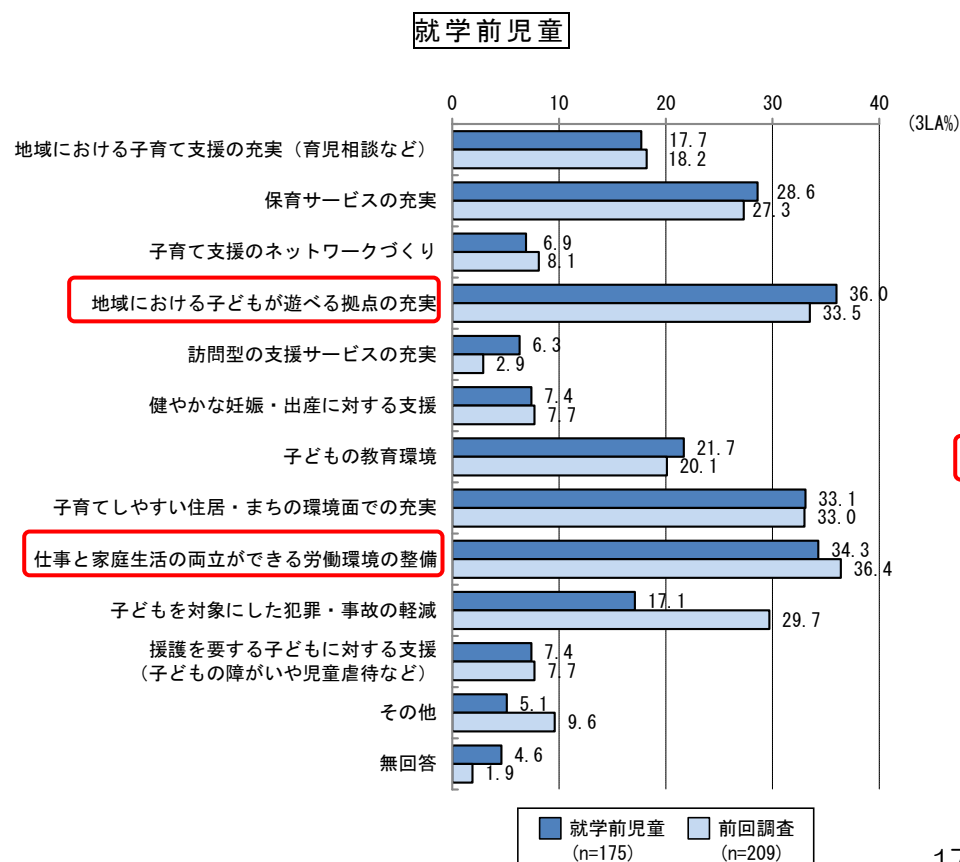


〔18〕子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策

＜小学生では、仕事と家庭生活の両立を強く希望しており3割半ばと高い＞

子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策についてたずねたところ、就学前児童では、「地域における子どもが遊べる拠点の充実」が36.0%と最も多く、次いで、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が34.3%となっています。

小学生では、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が35.2%と最も多く、次いで、「地域における子どもが遊べる拠点の充実」が30.2%となっています。

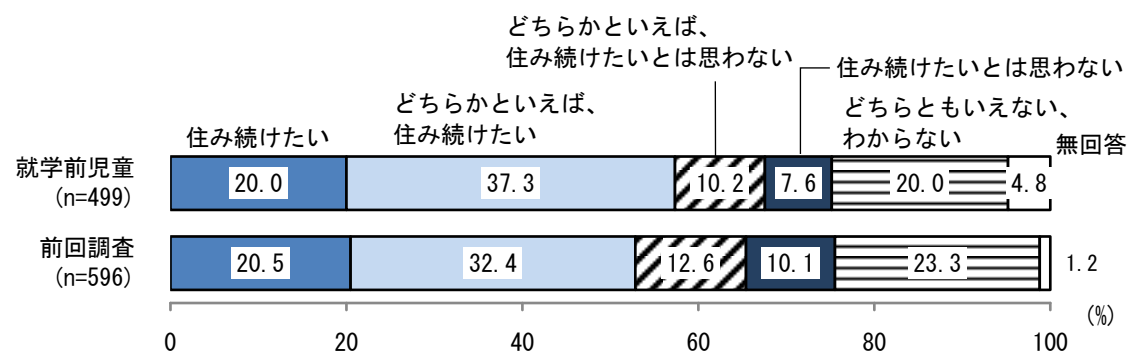


〔19〕 門真市への定住意向＜就学前児童、小学生ともに『住み続けたい』が5割を超えている＞

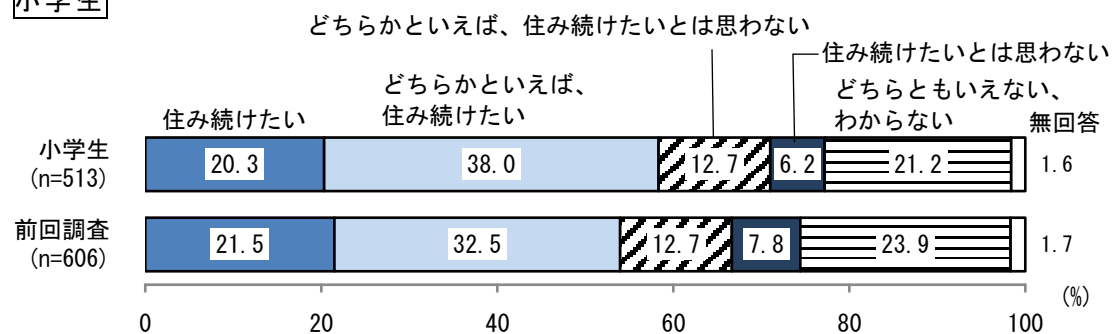
これからも門真市に住み続けたいかたずねたところ、就学前児童では、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』が、57.3%となっています。

小学生では、『住み続けたい』が、58.3%となっています。

就学前児童



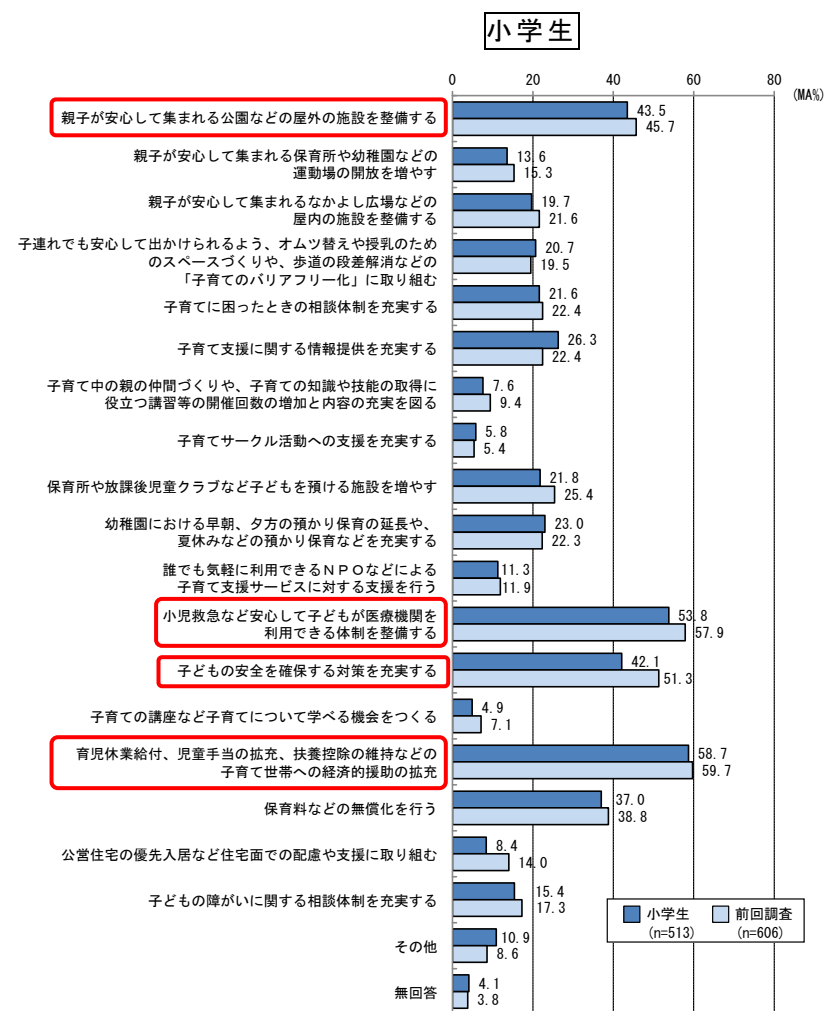
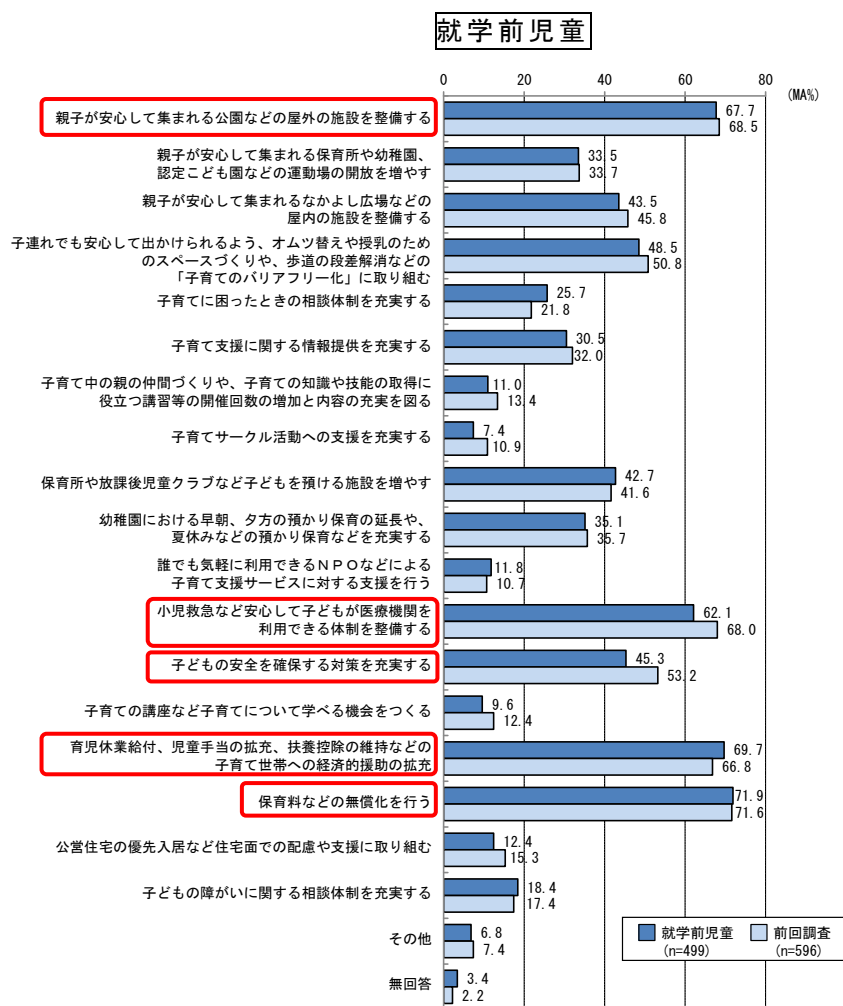
小学生



〔20〕 充実してほしい子育て支援策 <就学前児童、小学生ともに経済面での支援、医療機関の充実の割合が高い>

就学前児童では、「保育料などの無償化を行う」が71.9%と最も多くなっています。

小学生では、「育児休業給付、児童手当の拡充、扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が58.7%と最も多くなっています。

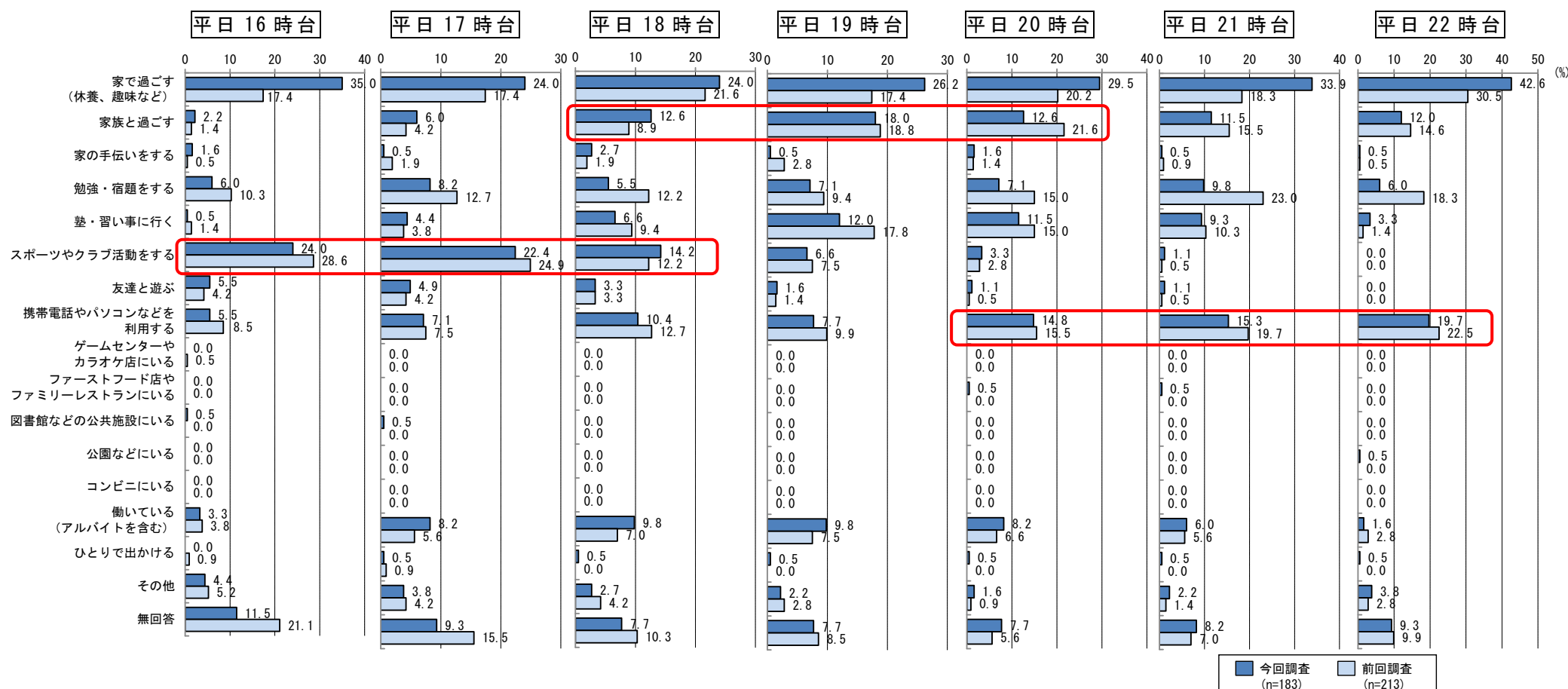


【13～18 歳の市民】

〔1〕 放課後の過ごし方 <家で過ごす時間が増加し、勉強や塾・習い事が減少>

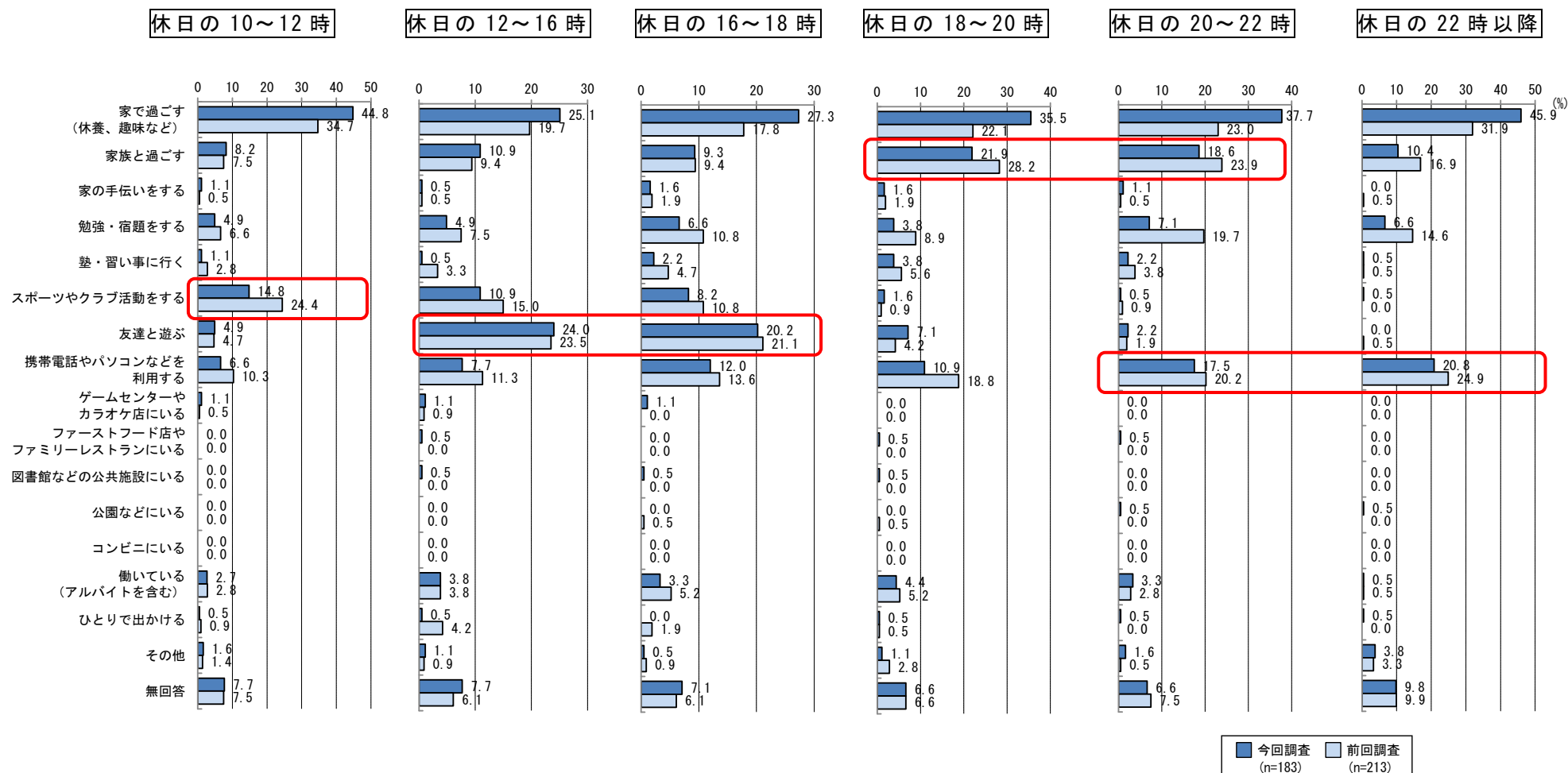
放課後の過ごし方では、「スポーツやクラブ活動をする」は 16～18 時台に、「家族と過ごす」は 18～19 時台に、「携帯電話やパソコンなどを利用する」は 20～22 時台に行う人が多く見られます。

前回調査との比較でみると、「家で過ごす（休養、趣味など）」がどの時間帯でも増えており、「勉強・宿題をする」、「塾・習い事に行く」が減っている傾向がみられます。



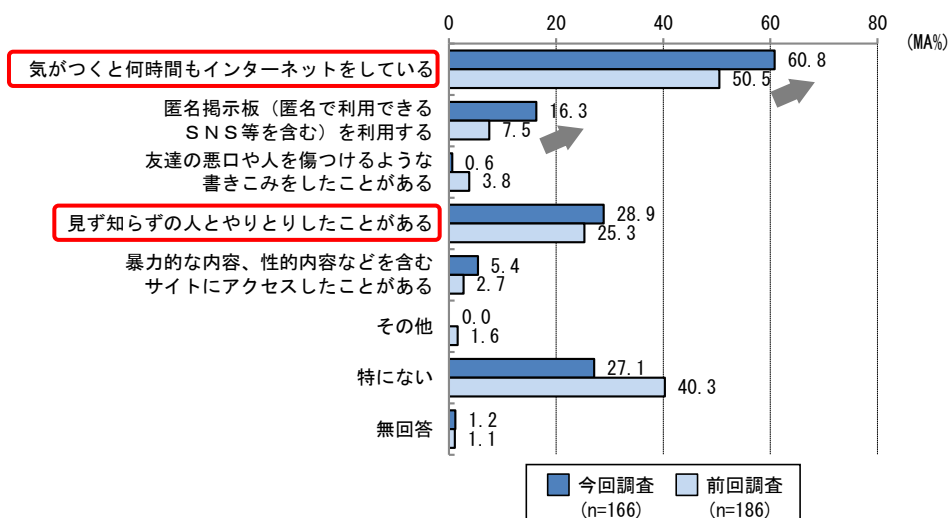
〔２〕 休日の過ごし方 <平日同様、家で過ごす時間が増加し、勉強や塾・習い事が減少>

休日の過ごし方では、「スポーツやクラブ活動をする」は 10～12 時に、「友達と遊ぶ」は 12～18 時に、「家族と過ごす」は 18～22 時に、「携帯電話やパソコンなどを利用する」は 20 時以降に行う人が多く見られます。



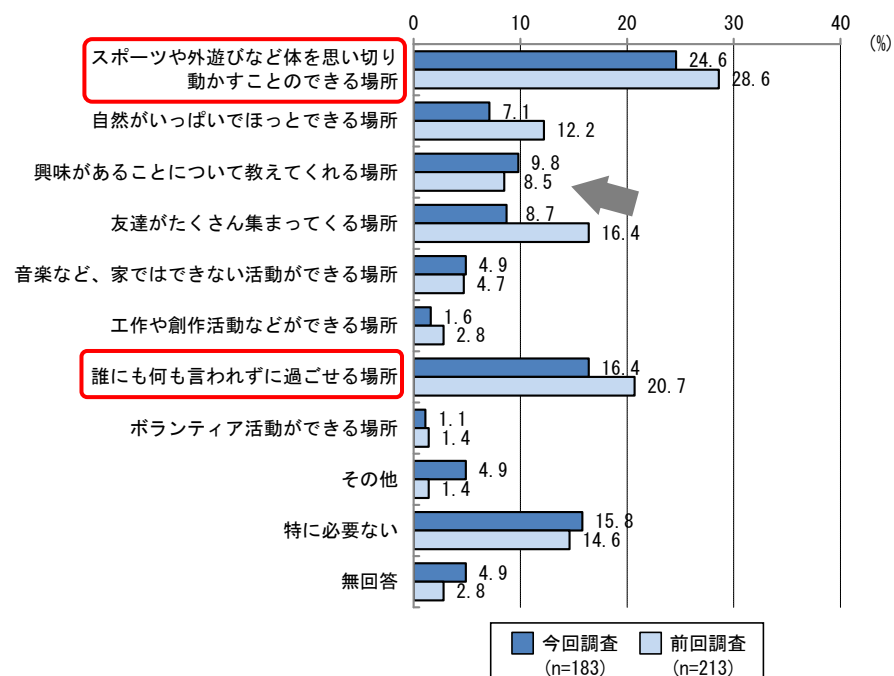
〔３〕メールやインターネットを利用する中で経験したこと
 <前回に比べて利用時間、SNS等の利用率が１割程増加>

メールやインターネットを利用する中で経験したこと
 とをたずねたところ、「気がつくとも時間もインターネット
 をしている」が60.8%と最も多く、次いで、「見
 ず知らずの人とやりとりしたことがある」が28.9%と
 なっています。



〔４〕自分にとって一番必要な場所
 <前回同様、外で遊べる場所を必要とする割合が高い>

自分にとって一番必要な場所をたずねたところ、「ス
 ポーツや外遊びなど体を思い切り動かすことのできる
 場所」が24.6%と最も多く、次いで、「誰にも何も言
 われずに過ごせる場所」が16.4%となっています。

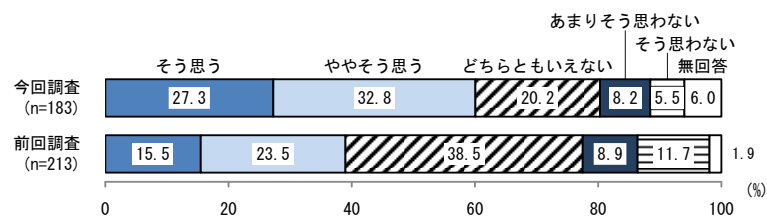


〔5〕自分自身について感じていること、悩みや相談について

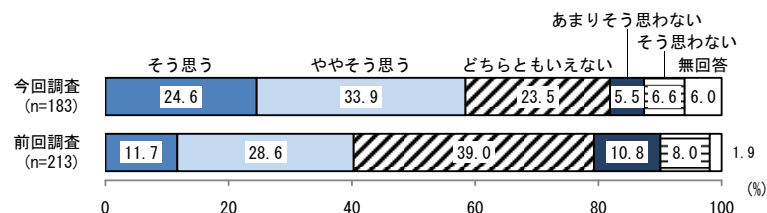
＜前回調査時よりも自分自身への評価は上昇傾向、「悩んでいることはない」を回答した割合が増加。
相談場所については、身近な手段で、いつでも気軽に利用できるものが有効＞

自分自身について、前回調査に比べて「そう思う」、
「ややそう思う」が多くなっています。

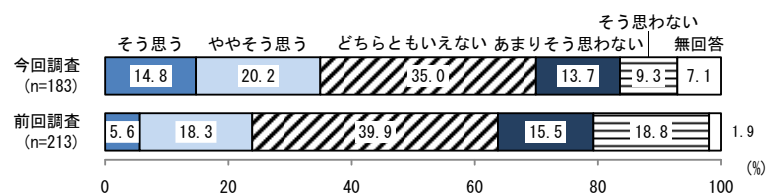
① 自分のことが好きだ



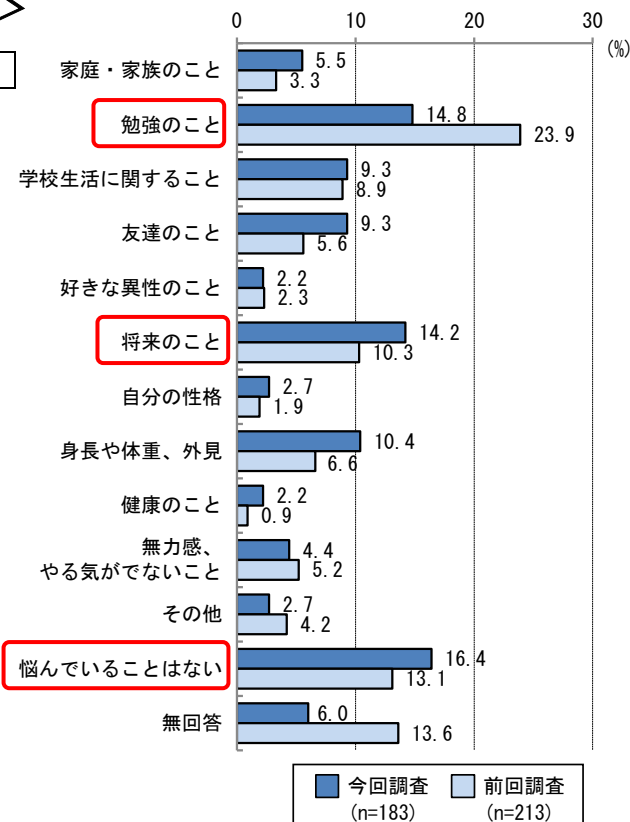
② 自分は人から必要とされている



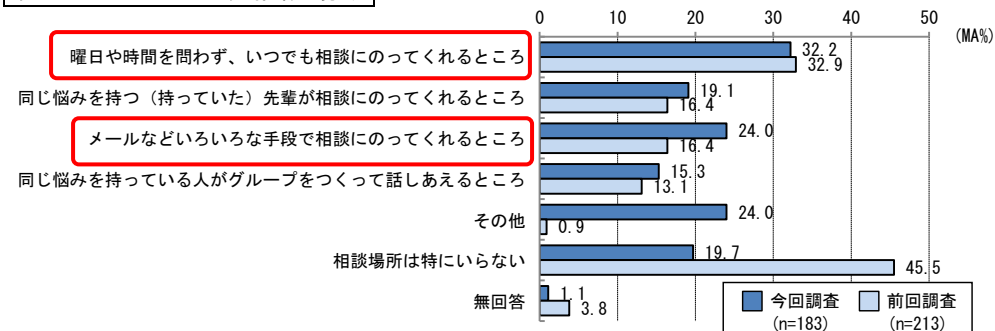
③ 理想の自分に近づけている



悩んでいること（1位）



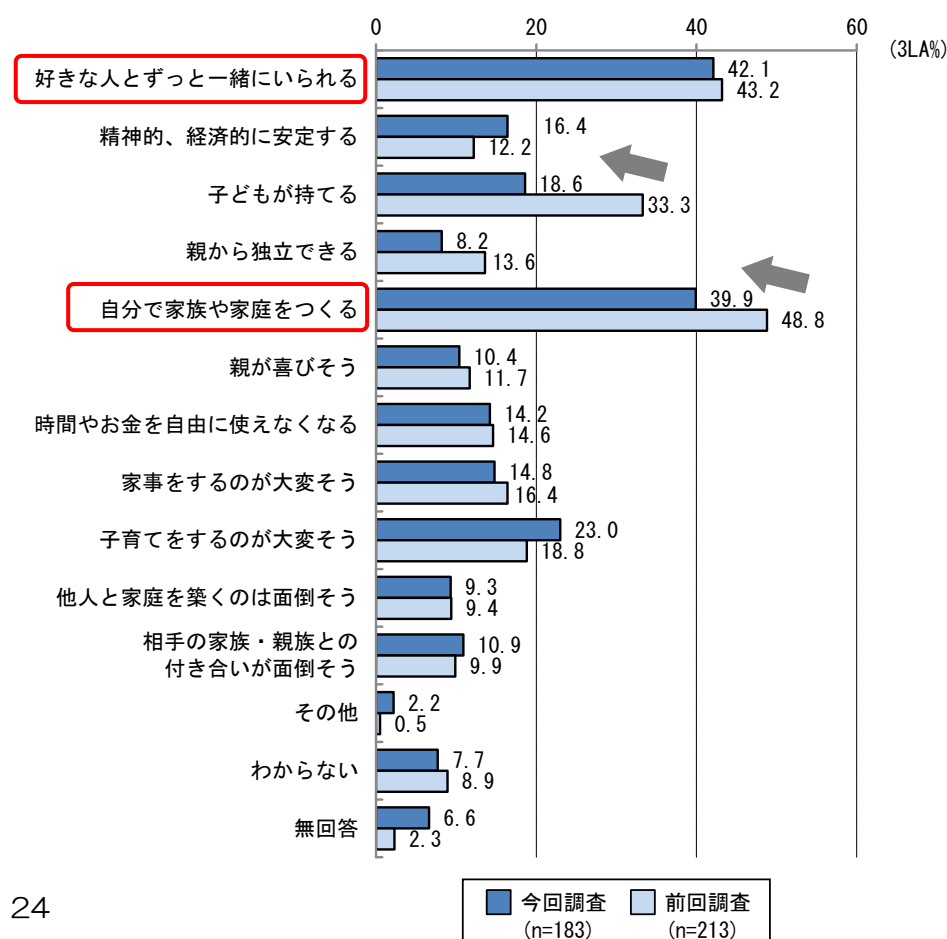
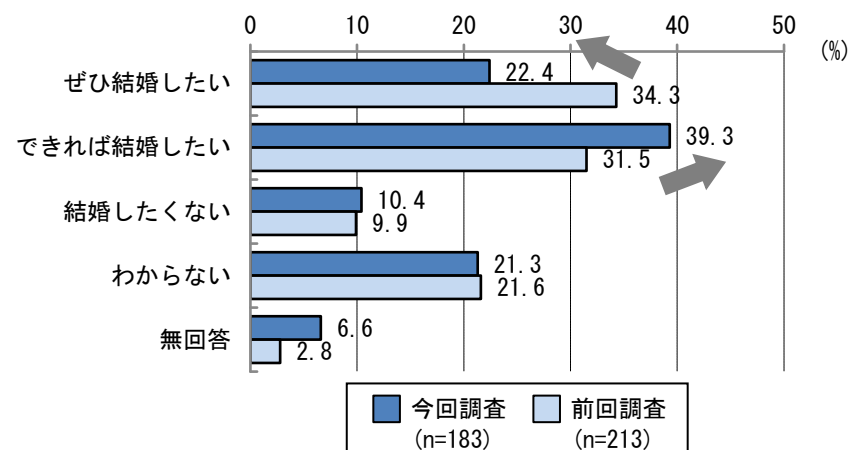
あればよいと思う相談場所



〔6〕結婚、子どもについて <結婚したいと思う割合は1割以上減少、「結婚＝子ども」のイメージも減少>

将来結婚したいと思うかについてたずねたところ、「ぜひ結婚したい」が22.4%、「できれば結婚したい」が39.3%、「結婚したくない」が10.4%となっています。

「結婚」のイメージをたずねたところ、「好きな人とずっと一緒にいられる」が42.1%と最も多く、次いで、「自分で家族や家庭をつくる」が39.9%、「子育てをするのが大変そう」が23.0%となっています。

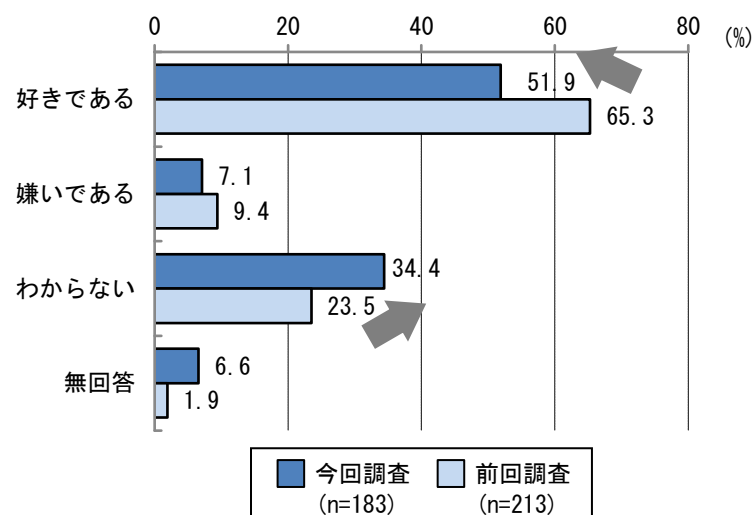


〔7〕子どもは好きか、何人くらい欲しいと思うか

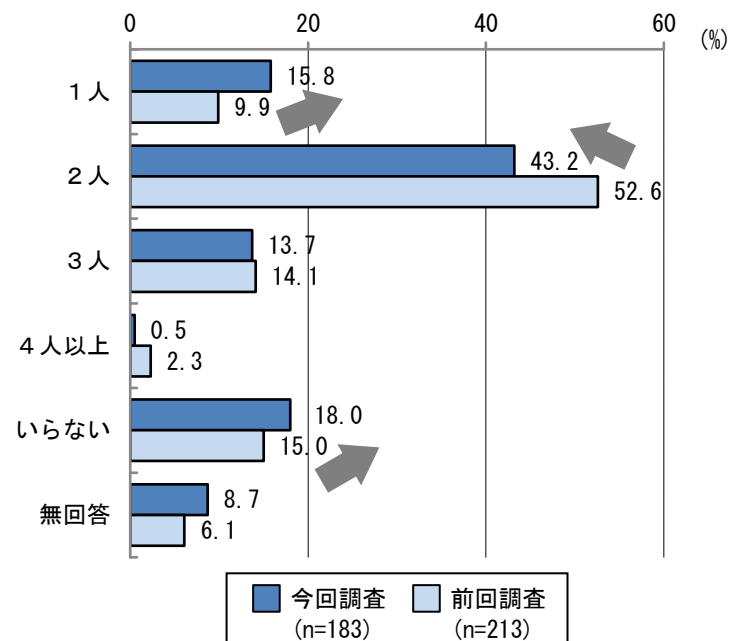
＜子どもが好きな割合が5割と前回に比べて減少、子どもはいらない割合が2割弱と前回に比べて増加＞

子どもについてたずねたところ、「好きである」が51.9%となっています。

また、「嫌いである」と答えた理由をたずねたところ、「意思疎通が難しいため」、「しつけや、教育が大変そうだから」、「うるさい、泣くから」、「加減を知らないから」となっています。

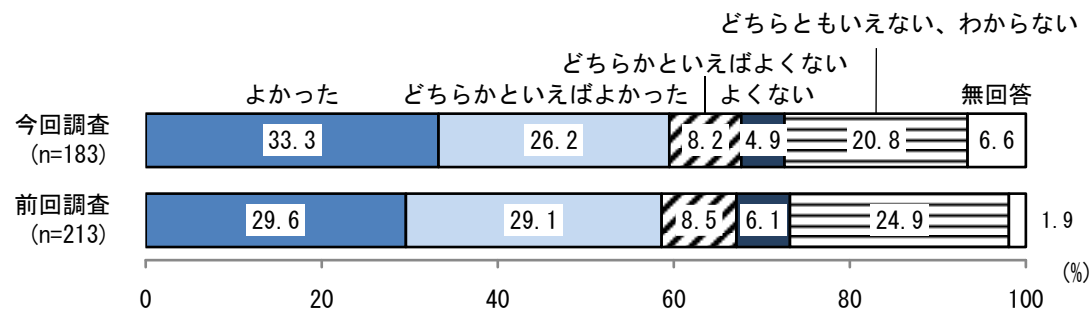


欲しい子どもの数をたずねたところ、「1人」が15.8%、「2人」が43.2%、「3人」が13.7%、「4人以上」が0.5%となっています。一方、「いない」が18.0%となっています。

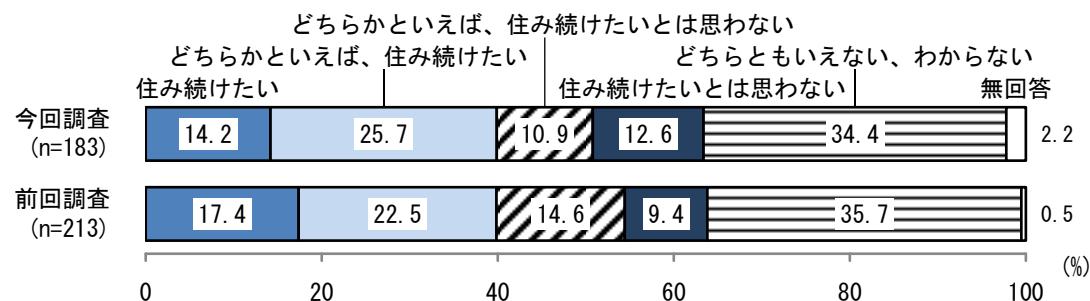


〔 8 〕 門真市に対する思い <「住んでいてよかった」が6割、「住み続けたい」が4割>

門真市に住んでいてよかったと思うかをたずねたところ、「よかった」、「どちらかといえばよかった」を合わせた『よかった』が 59.5%となっています。

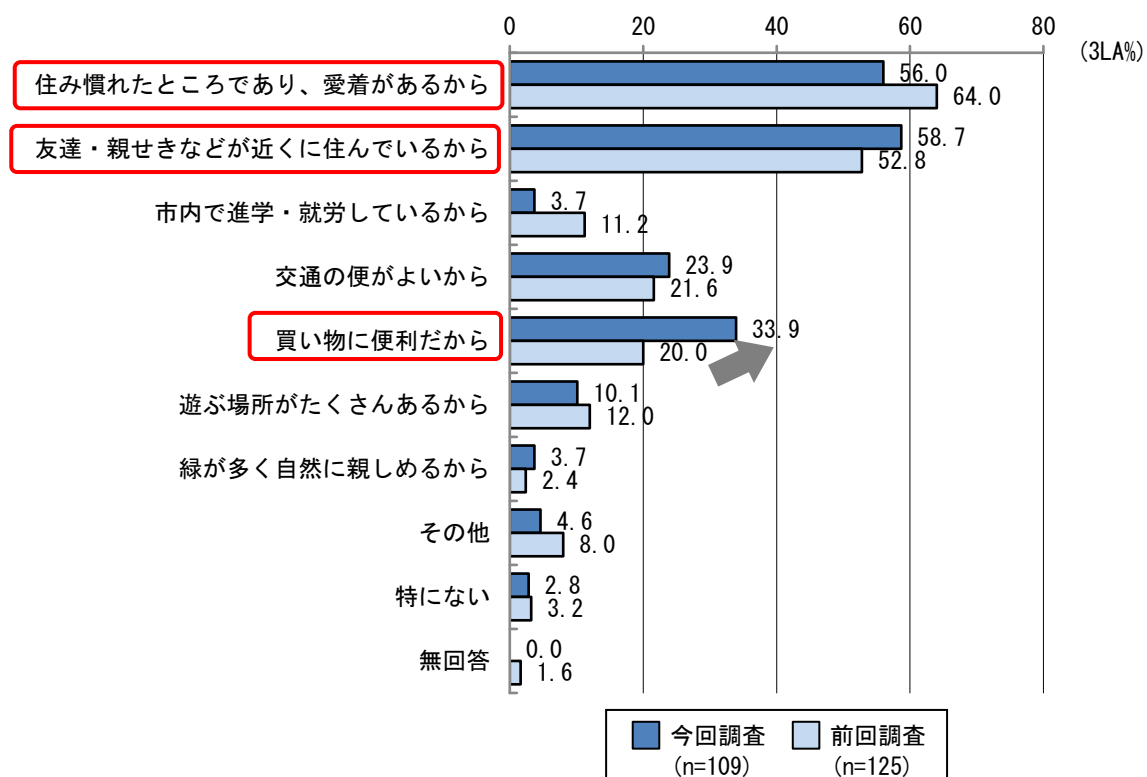


門真市に住み続けたいと思うかについてたずねたところ、「住み続けたい」、「どちらかといえば、住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』が 39.9%となっています。



〔 9 〕 門真市に住んでいてよかったと感じる理由 <買い物に便利と答えた割合が3割>

門真市に住んでいてよかったと感じる理由をたずねたところ、「友達・親せきなどが近くに住んでいるから」が 58.7%と最も多く、次いで、「住み慣れたところであり、愛着があるから」が 56.0%、「買い物に便利だから」が 33.9%となっています。



【ひとり親家庭等】

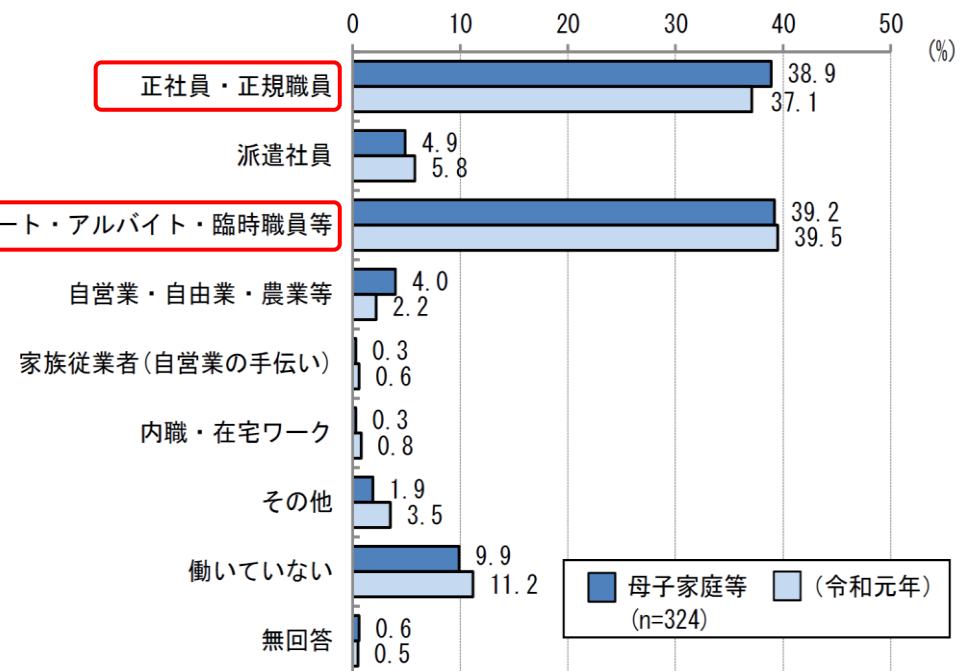
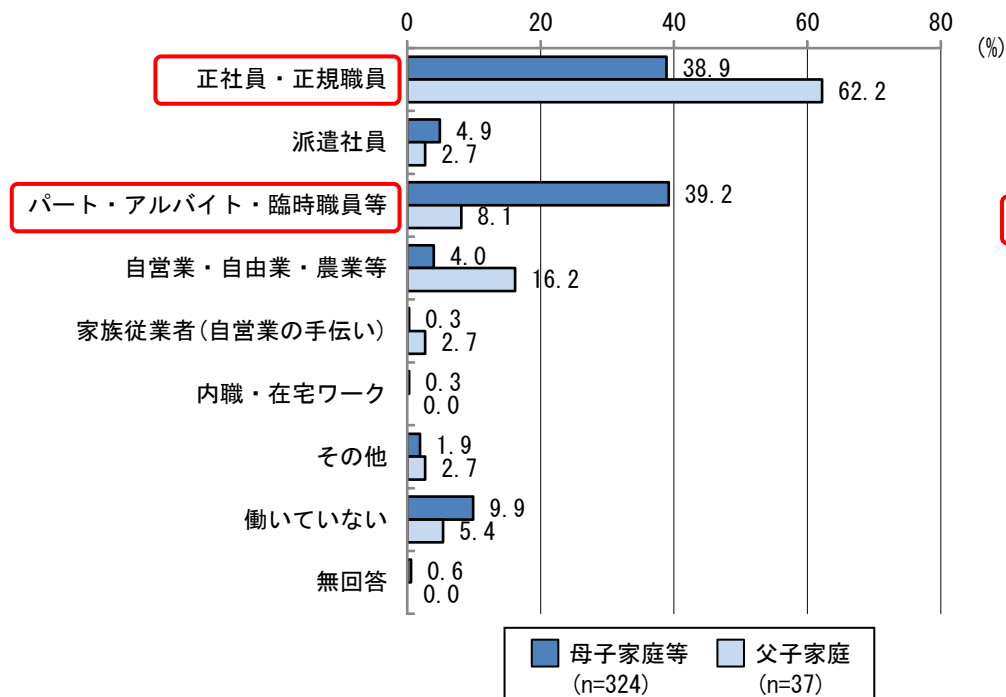
〔１〕現在の就業状況

＜母子家庭等では、正社員・正規職員、パート・アルバイト・臨時職員等がともに４割。

父子家庭に比べて正社員・正規職員の割合は低いですが、経年でみると正社員・正規職員の割合は増加傾向＞

現在の就業形態は、母子家庭等の母親では、「パート・アルバイト・臨時職員等」が 38.9%、父子家庭の父親では、「正社員・正規職員」が 62.2%と多くなっています。

経年でみると、「正社員・正規職員」は増加傾向、「パート・アルバイト・臨時職員等」は減少傾向となっています。

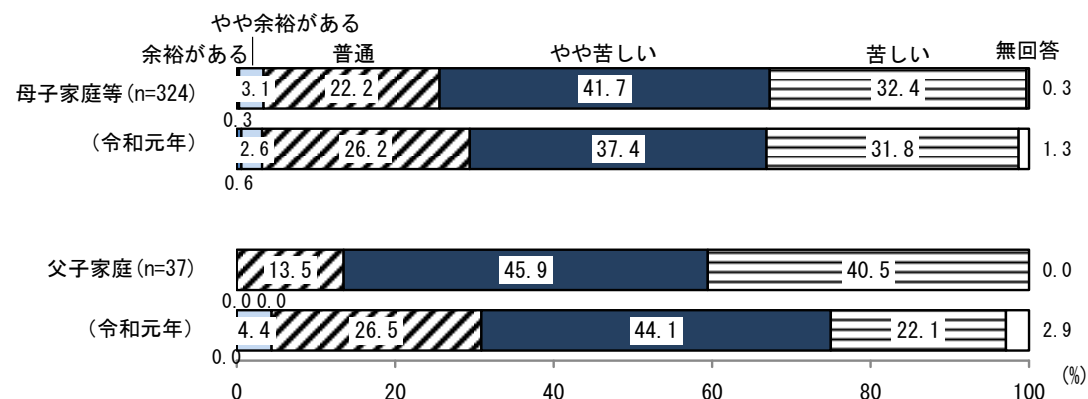


〔 2 〕 経済的な生活状況 <生活状況が『苦しい』は母子家庭等で7割、父子家庭で8割>

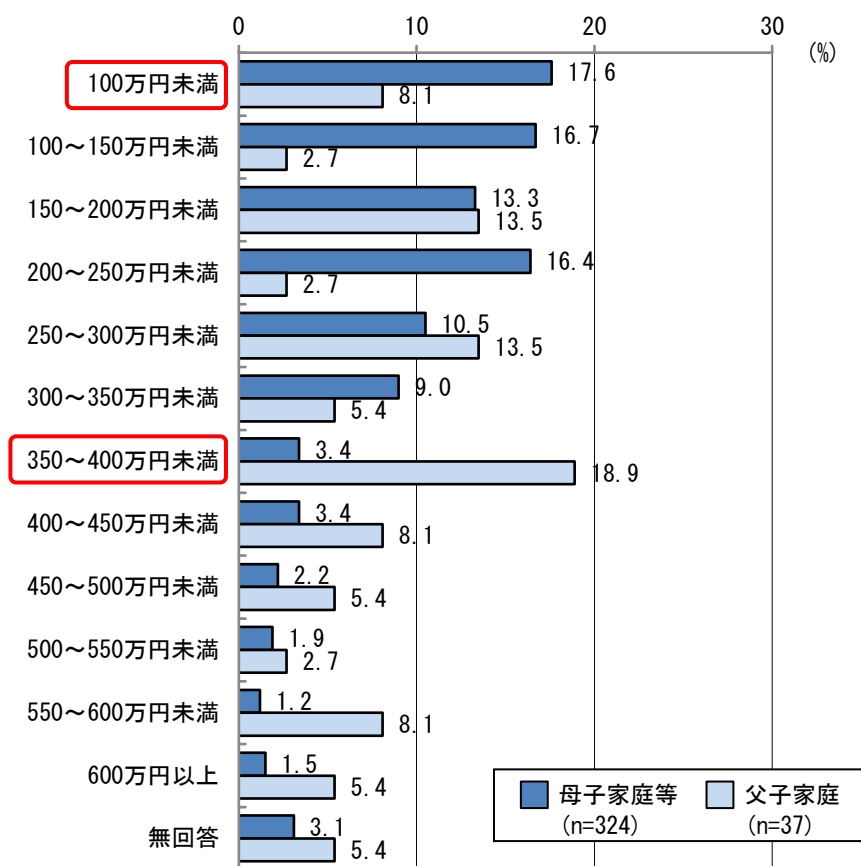
経済的な生活状況は、「やや苦しい」と「苦しい」を合わせた『苦しい』が、母子家庭等で74.1%、父子家庭で86.4%となっています。

年間の就労収入は、母子家庭等では「100万円未満」が17.6%と最も多く、父子家庭では「350～400万円未満」が18.9%と最も多くなっています。

経済的な生活状況



年間の就労収入額

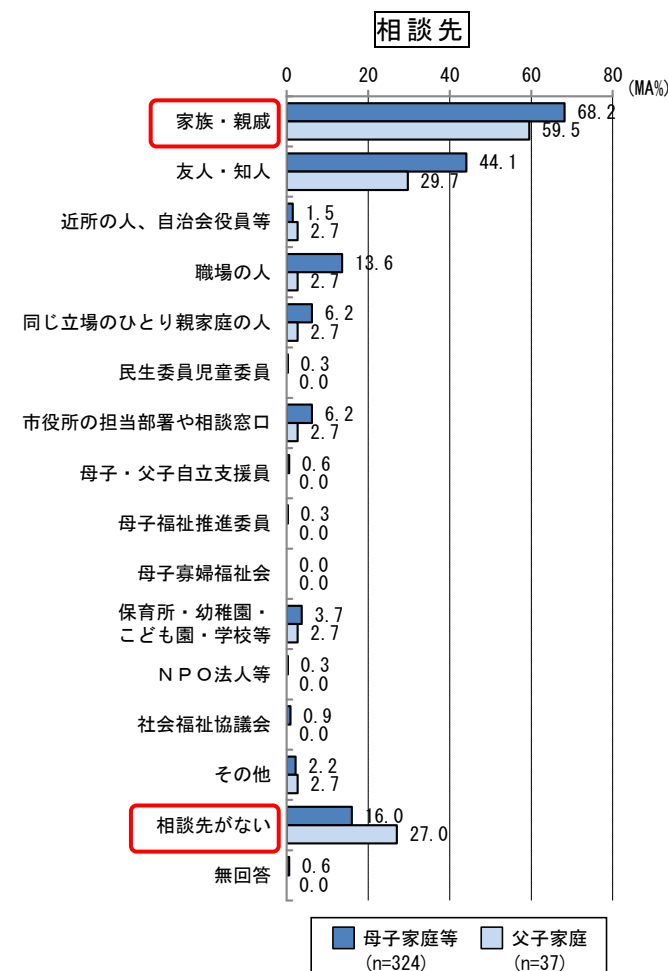
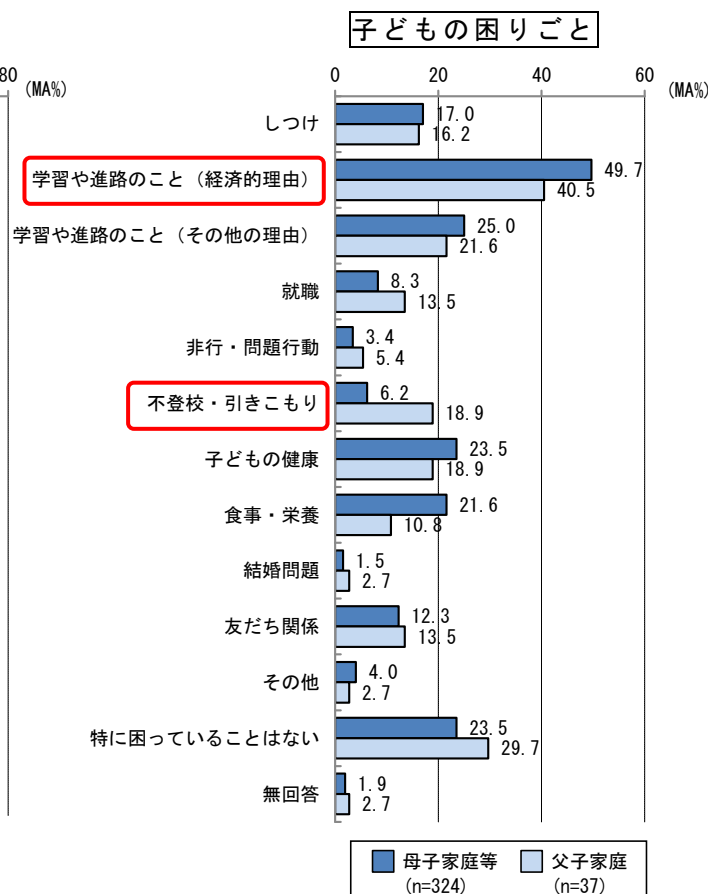
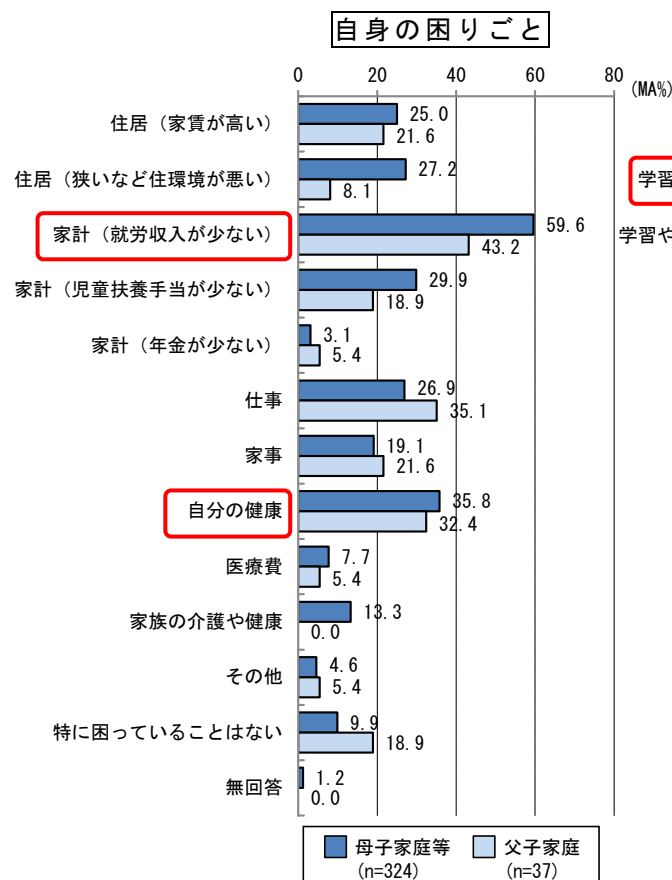


〔3〕 現在困っていること・相談先 <困っていることは経済的なこと、相談先のない父子家庭が約3割>

自身のことで困っていることは、母子家庭等、父子家庭ともに「家計（就労収入が少ない）」が最も多く、母子家庭等で59.6%、父子家庭で43.2%となっています。

子どものことで困っていることは、「学習や進路のこと（経済的理由）」が母子家庭等で49.7%、父子家庭で40.5%と最も多くなっています。

相談や手助けを頼む先は、「家族・親戚」が母子家庭等で68.2%、父子家庭で59.5%と最も多くなっています。また、父子家庭では「相談先がない」が27.0%となっています。



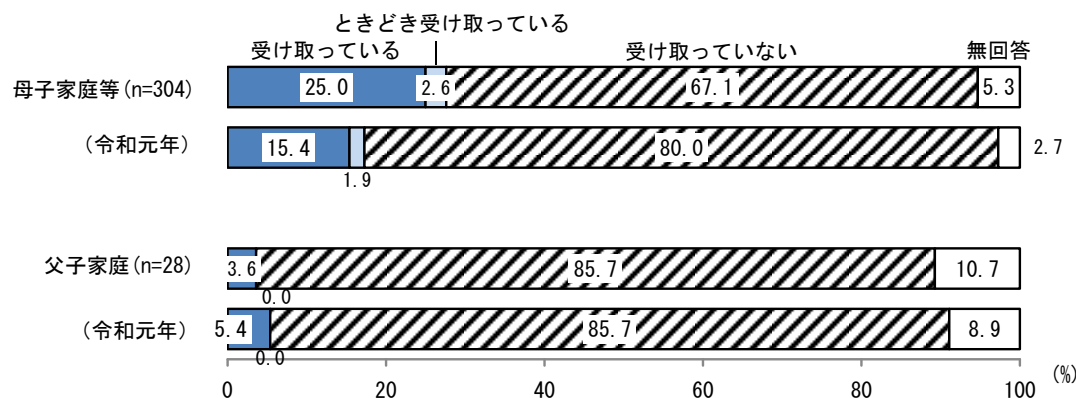
〔４〕養育費について

＜養育費を受け取っている母子家庭等は３割弱と増加傾向、取り決めている家庭は４割強＞

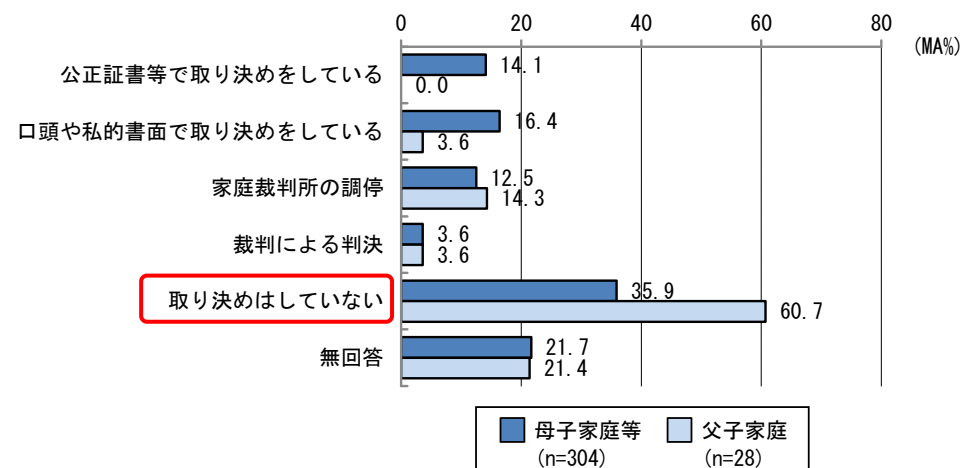
養育費については、母子家庭等の27.6%が何らかの形で受け取っており、前回調査に比べて10.3ポイント増加しています。

養育費の取り決めについては、「取り決めはしていない」が母子家庭等で35.9%、父子家庭で60.7%となっています。

養育費の有無

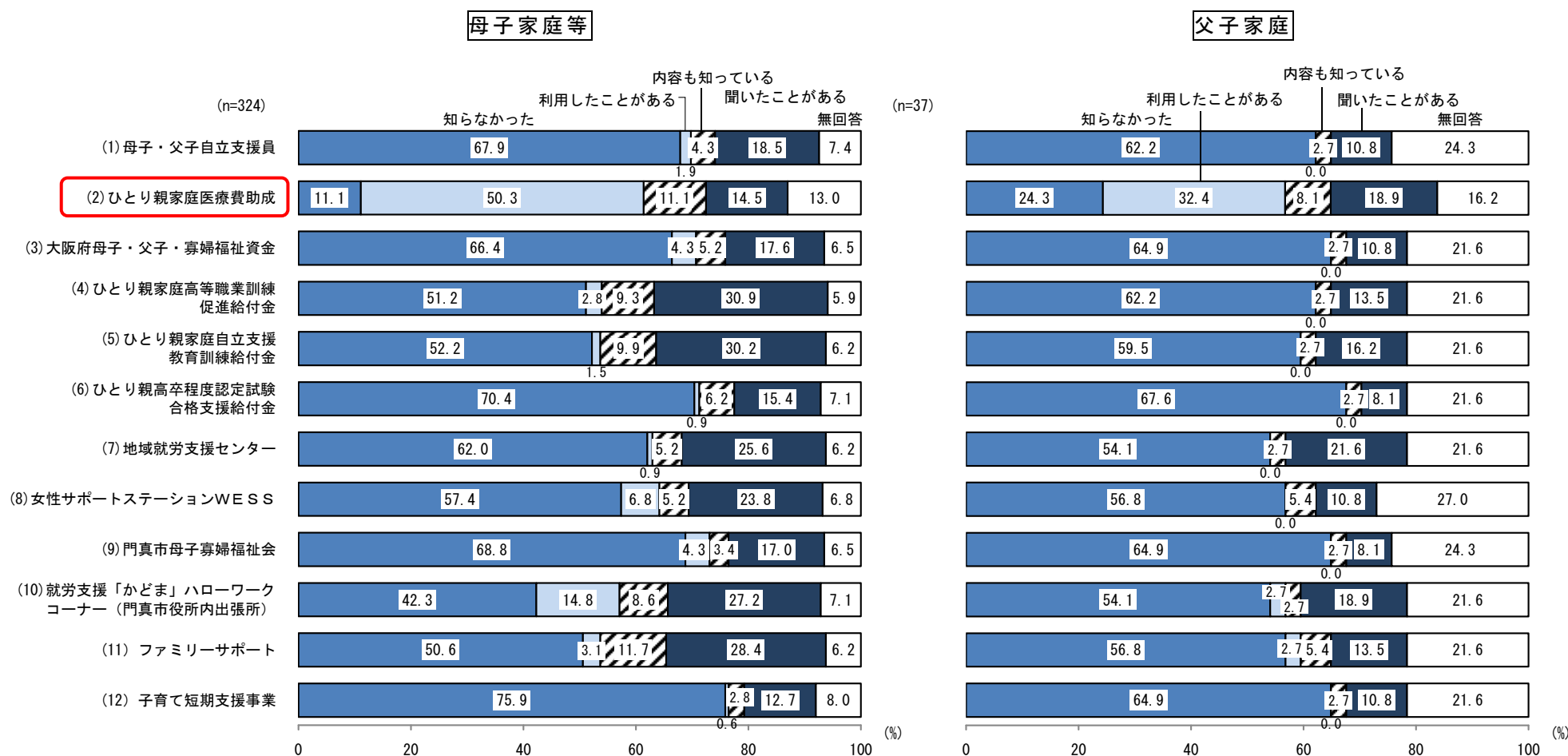


養育費の取り決め



〔５〕施設や制度・施策の認知と利用状況 <認知していない割合が高く、情報発信方法の見直しが重要>

施設や制度・施策の認知度をたずねたところ、「利用したことがある」、「内容も知っている」、「聞いたことがある」を合わせた『知っている』は、「(2)ひとり親家庭医療費助成」が最も多く、母子家庭等で75.9%、父子家庭等で59.4%となっています。一方、5割から7割の方が、「(2)ひとり親家庭医療費助成」を除くほとんどの施設や制度・施策を「知らなかった」と回答しています。

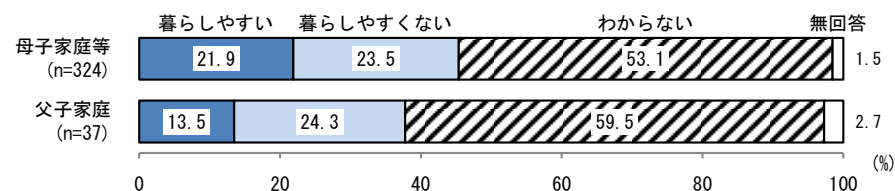


〔6〕ひとり親家庭等を取り巻く門真市の環境

＜門真市を「暮らしやすい」と感じる家庭は母子家庭等で2割、父子家庭で1割強
取り巻く環境は、交通の便がよく、同じ立場の仲間が多い＞

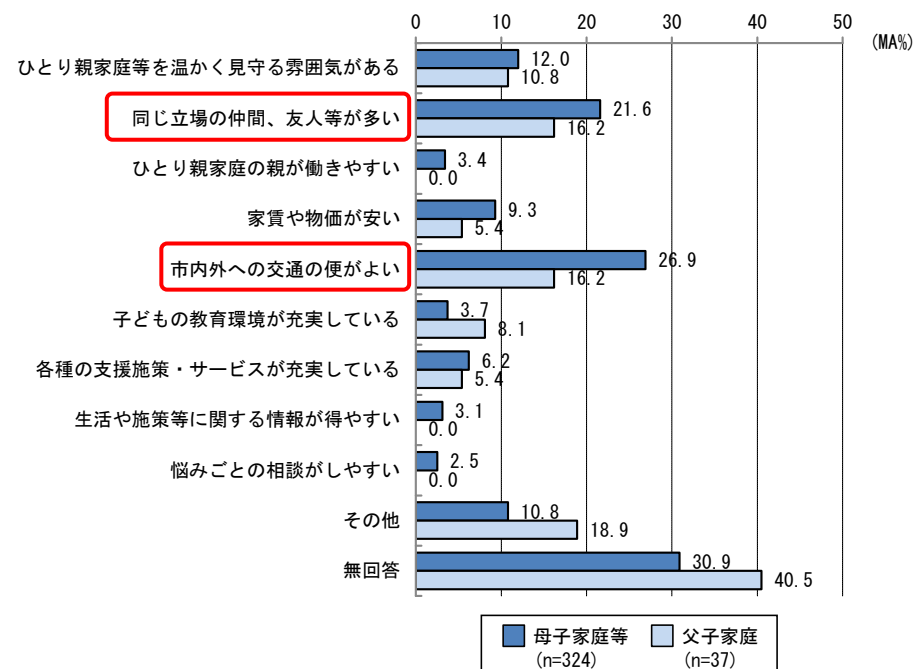
門真市の暮らしやすさについては、母子家庭等の21.9%、父子家庭の13.5%が「暮らしやすい」と回答しています。

門真市の暮らしやすさ



ひとり親家庭等を取り巻く門真市の環境は、母子家庭等では「市内外への交通の便がよい」が26.9%と最も多くなっています。父子家庭では、「同じ立場の仲間、友人等が多い」、「市内外への交通の便がよい」がそれぞれ16.2%となっています。

ひとり親家庭を取り巻く環境



〔 7 〕 自立や生活の安定を図るために望まれる支援策

＜年金・児童扶養手当の充実や就学援助、医療費負担の軽減などの支援が求められている＞

自立や生活の安定を図るために望まれる支援策は、「年金・児童扶養手当の充実」が母子家庭等で 60.2%、父子家庭で 48.6%と最も多くなっています。

